

D.H

ナンナニヒミツ ~石原さゆみ 32歳の場合~

夏の浴衣の思惑

義父から告げられる言葉

さゆみは義父の言葉を信じ

夫に気づかれぬ様

悶え喘ぐ....

果たして義父の言葉は真実か!?



そうなの

いいよ 校了前で
作家さんの所によつて
原稿もらつてかなきゃ
ならないし……



えっ
もう行くの
ご飯は？



それより
おやじは
まだ寝てるの
一人相手させて悪いな
一週間もすれば
帰ると思うから



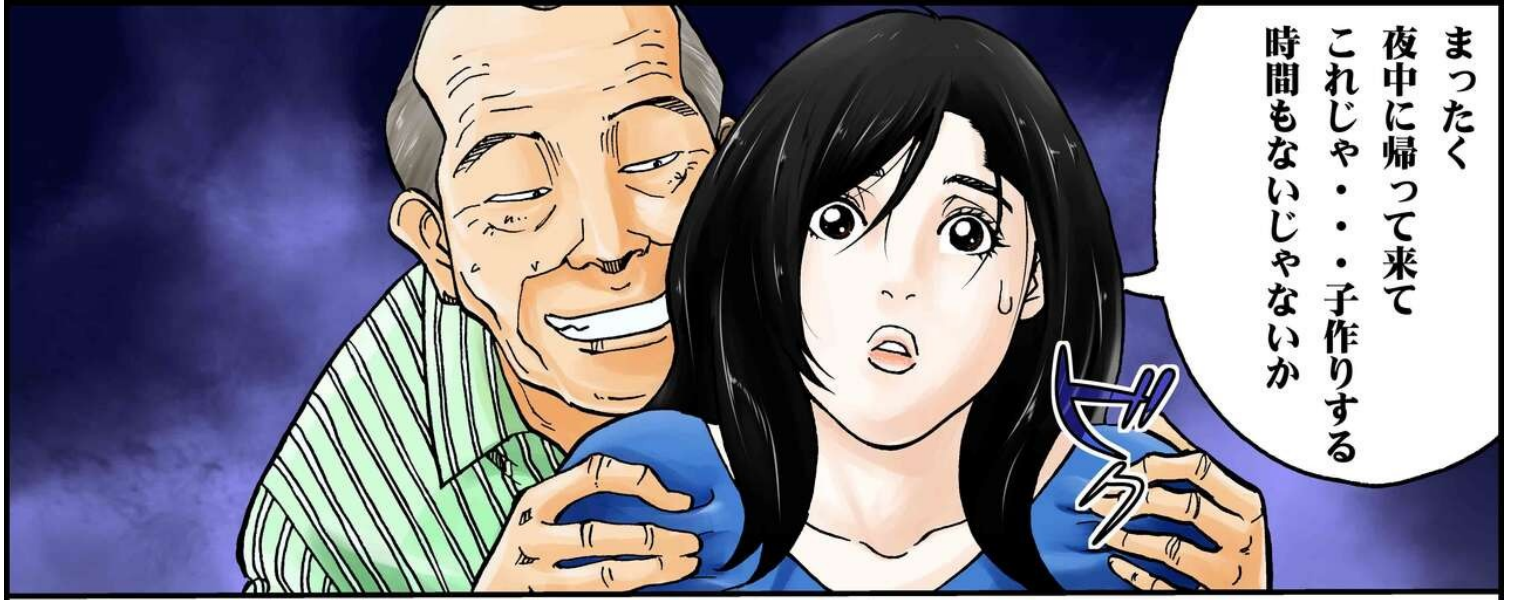
わかつてる

後……子供のこと
言ってくると思うけど
気にすることないから



じゃ

バカ



まったく
夜中に帰って来て
これじゃ・・・子作りする
時間もないじゃないか



・・・ください
やっぱりこんな事
変だと思えます



モロモロ

モロモロ

ヤメテッ



何を
言い出すんじゃ

昨日は承諾して
くれたじゃないか

あれは
無理やり



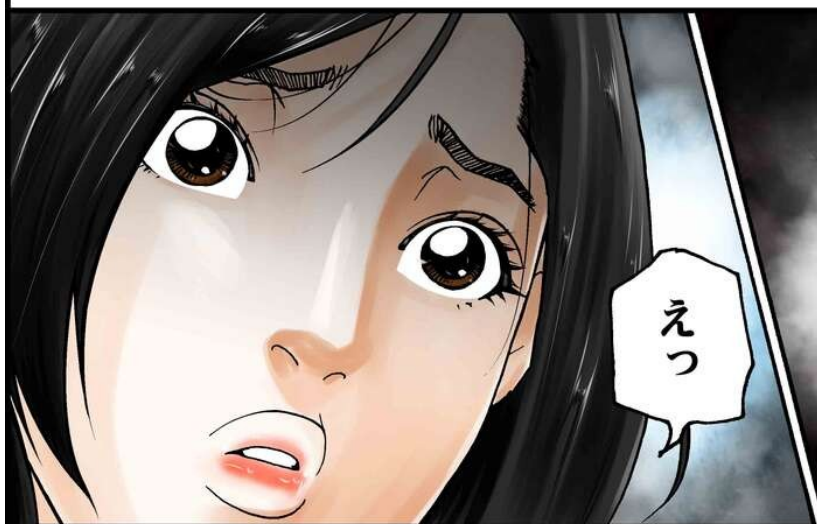
そう・・・
あれは昨日
義母が入院中
一人で何も出来ない義父を
預かる事に
.....



さゆみさん
今日は
他でもない
あなたにお願いがあつて
来たんじゃ

えっ
どうか
なされたん
ですか？

もしかして
お義母の
足の具合がよほど
悪いとか・・・



えっ



いや
実は、ばあさんの入院
足じゃのうて
痛かもしれないのじゃ



そこで
さゆみさんに頼みたいんだよ
あんたら結婚して
もう四年たつ・・・
なんとかばあさんに
孫の顔みせて
やれんじやろうかと思つてな



お義父様
孝一さんに
この事はっ

いつとらん
あいつは母親っ子だし
知ればショックも
大きからう



それは
ご期待されるのは
当然だと思えます
ただ・・・
孝一さんとは
授かりものですから
自然にまかせようと

そんなこと
言ってる場合じゃないから
こうして頼みに
来たんじゃないか

おっ
お義父様

これまでワシは散々
外で女を孕ませたり
ばあさんには迷惑を
かけてきた
だからこれは償いなんじゃ

わかってくれ
さゆみさん
必ず子供の出来やすい
身体にしてやるからの

えっ
お義父さっ

こうみえても
わかつとる
息子が女に淡泊な事も
・・・



痛い

ギョウ

ほれ
揉まれなれとらん乳じゃ
いったいどれくらいの頻度で
抱かれとるんじゃ



心配しなさんな
最後までヤルわけじゃない
しつかりと身体を揉みしだいて
さゆみさんの方から積極的に
息子にまたがって
もらいたいだけじゃ

どれっ
下の方はどうかな

毛

毛

ハオオオオ

いやっ
お義父様
止めてください
お願い



おや
さゆみさん
あんたパイパンかね



はずかしがらんでも
男からすりゃ
貴重なしろもんじゃ



うむうむ
なんと可愛らしい
まるで赤子のような
オマンマンじゃ

しかも
こんな鮮やかな桜色して
孝一のヤツまるで
使い込んでないとは
宝の持ち腐れってやつだろ
まったく けしからん

そんなっ
見ないでください
お義父様ああっ

おやっ
もうこんなになつとる
じゃないか

ダメ~~~~~
お義父様お願い

あっ
あああ

そんなこと

さゆみさんも
やはり欲求不満は
かくしきれんの

遠慮はいらん
気をやってみませい

おっお義父様
それ以上っ……

ズツ
チヤ

ニム
ポッ



思った以上に
いい身体をしとる
反応も十分じゃしな

すぐに
孕めるように
なるわい



後・・・
申し訳ないがワシも
このままじゃ
さすがにコイツが
つらくての



それ
わかるじゃろ？

せめて口で
処理してくれんか
この歳で自分で
こすっても
出るもんも出んから

これくらいのお返しはいいじゃろ
さゆみさん

いやっ
そんな

ほらその
ポツテリ
くちびるを
開けて

こうでも
せんと
終わらんぞ

うぐうぐ

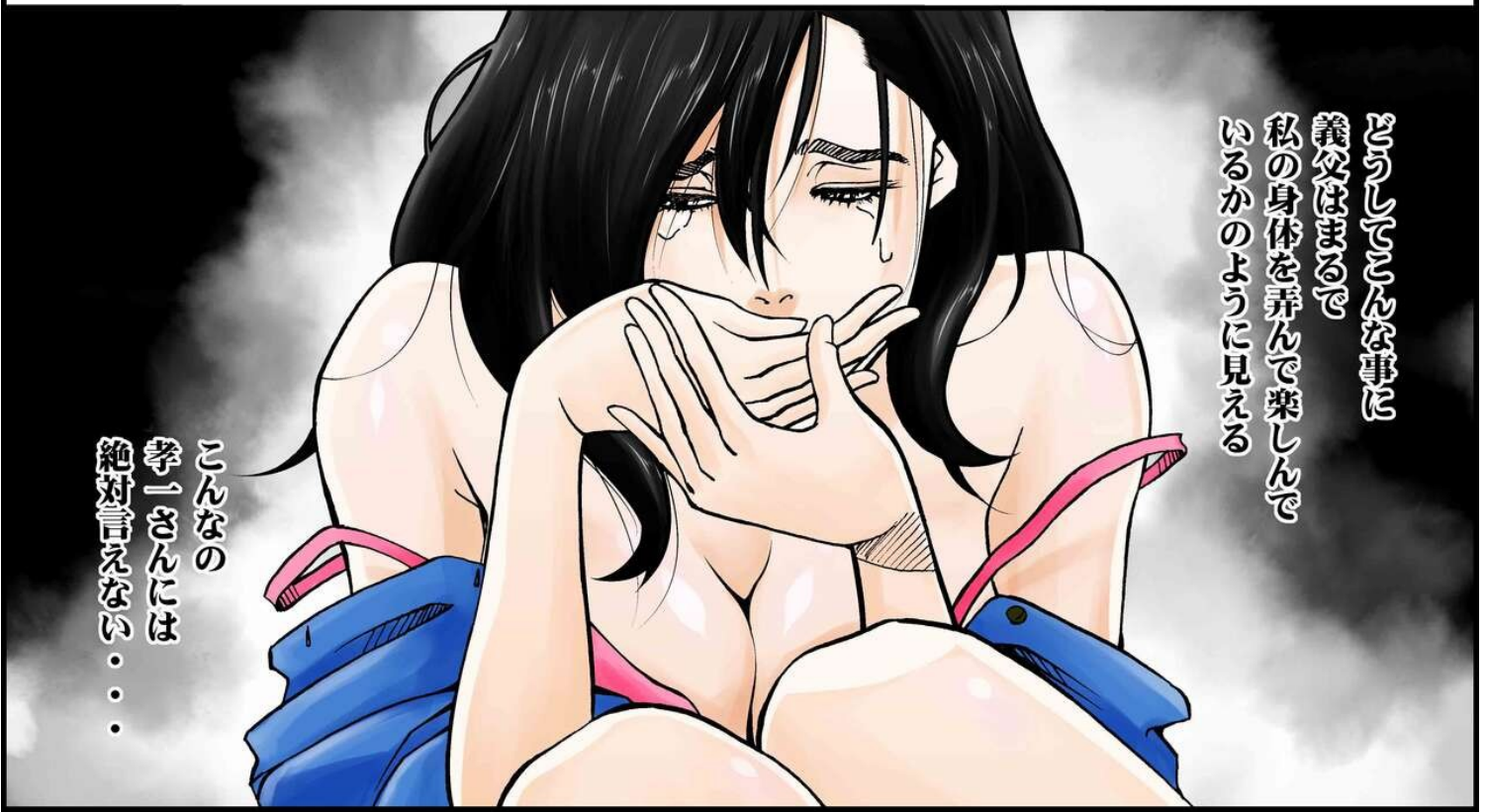
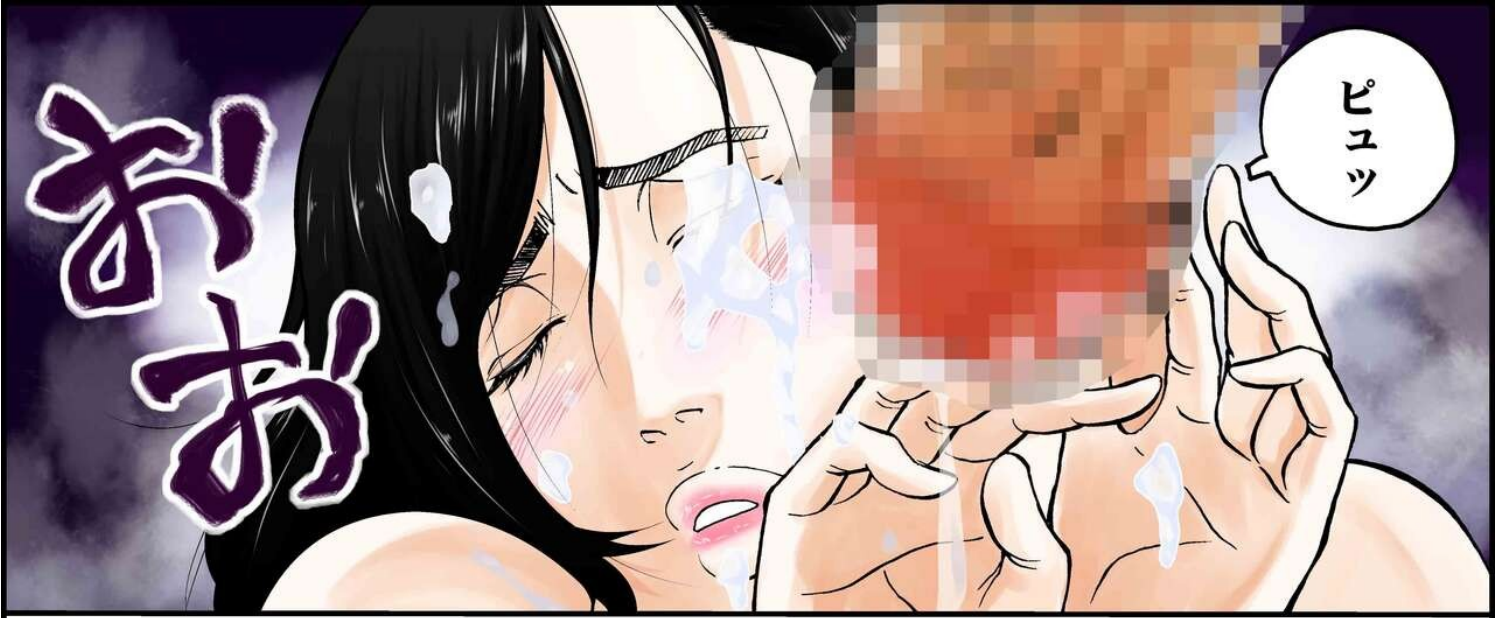
うぐ

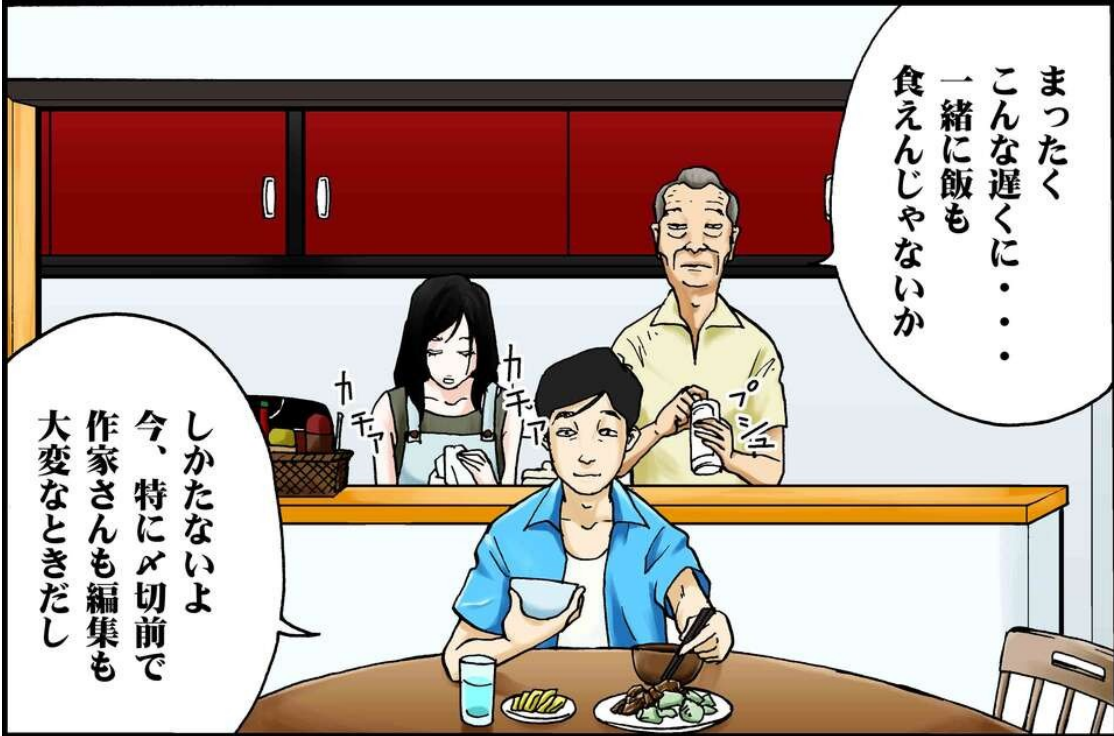
どうした
なににとる
ただ唾えてちや
始まらんじゃろ

ここから
教えねばならんか
なあさゆみさん
ふふふ...

んっ

んっんっ...





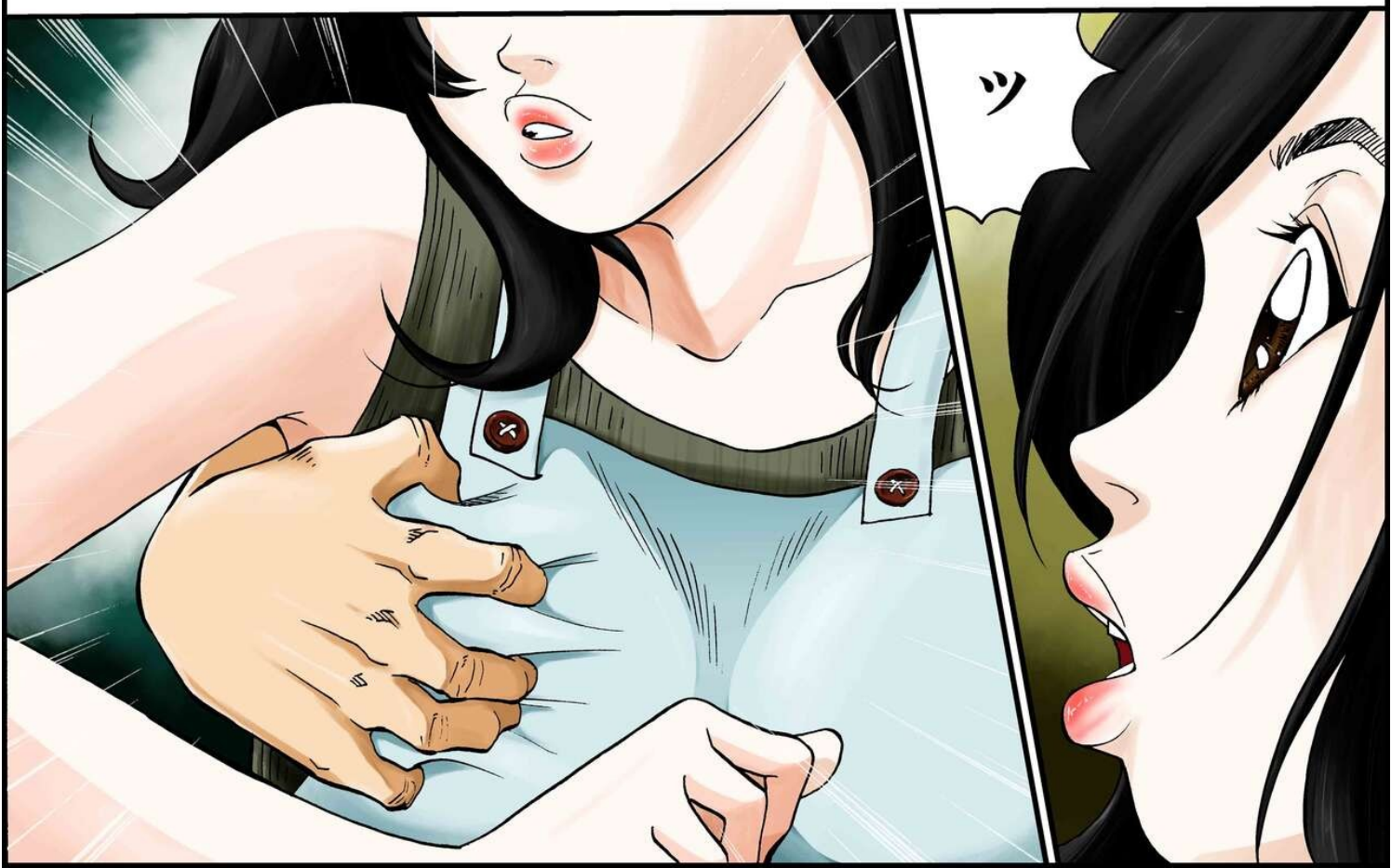
まったく
こんな遅くに・・・
一緒に飯も
食えんじゃないか

しかたないよ
今、特にメ切前で
作家さんも編集も
大変なときだし

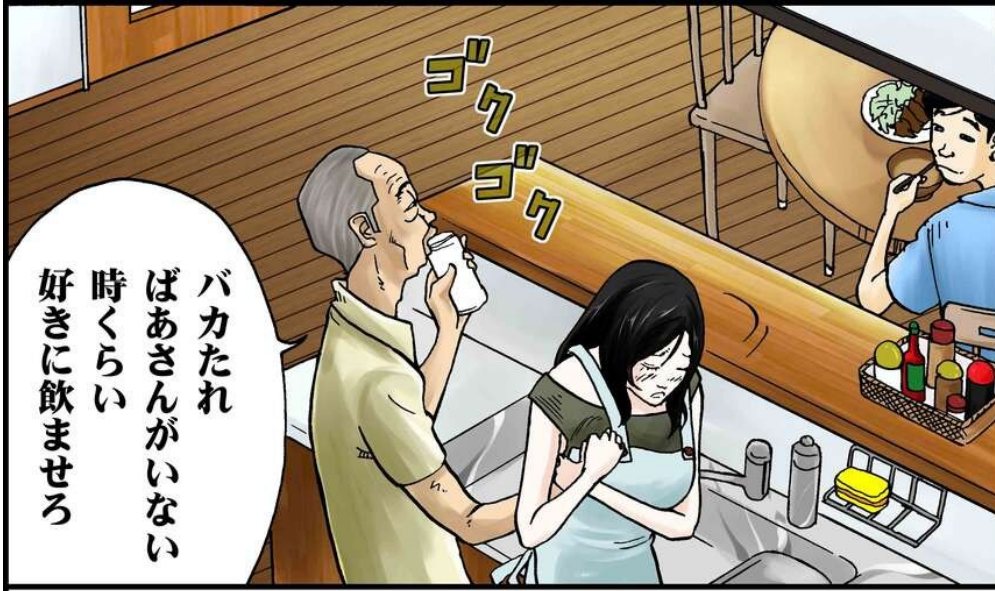


まだ
帰ってこれるだけでも
いい方なんだ

編集部に泊り込みの
先輩も多いんだから



ツ



バカたれ
ばあさんがいない
時くらい
好きに飲ませろ

ゴク
ゴク
ゴク



それより
父さんも
ビール飲み過ぎだろ



お前も
酒でも食らって
さゆみさんを
かまってるらんか



そんなんじやから
子供がつくれん
のじゃよ

なんでも
そっちの話にもつてくなよ
そうゆうのがプレッシャーに
なるんだよ
僕らは自然の
流れにまかせてるって
いってるだろ

うっ...

悠長なこと
言いをつて……

クリ

さゆみさんも
何かいって
やりなさい

わっ私は……

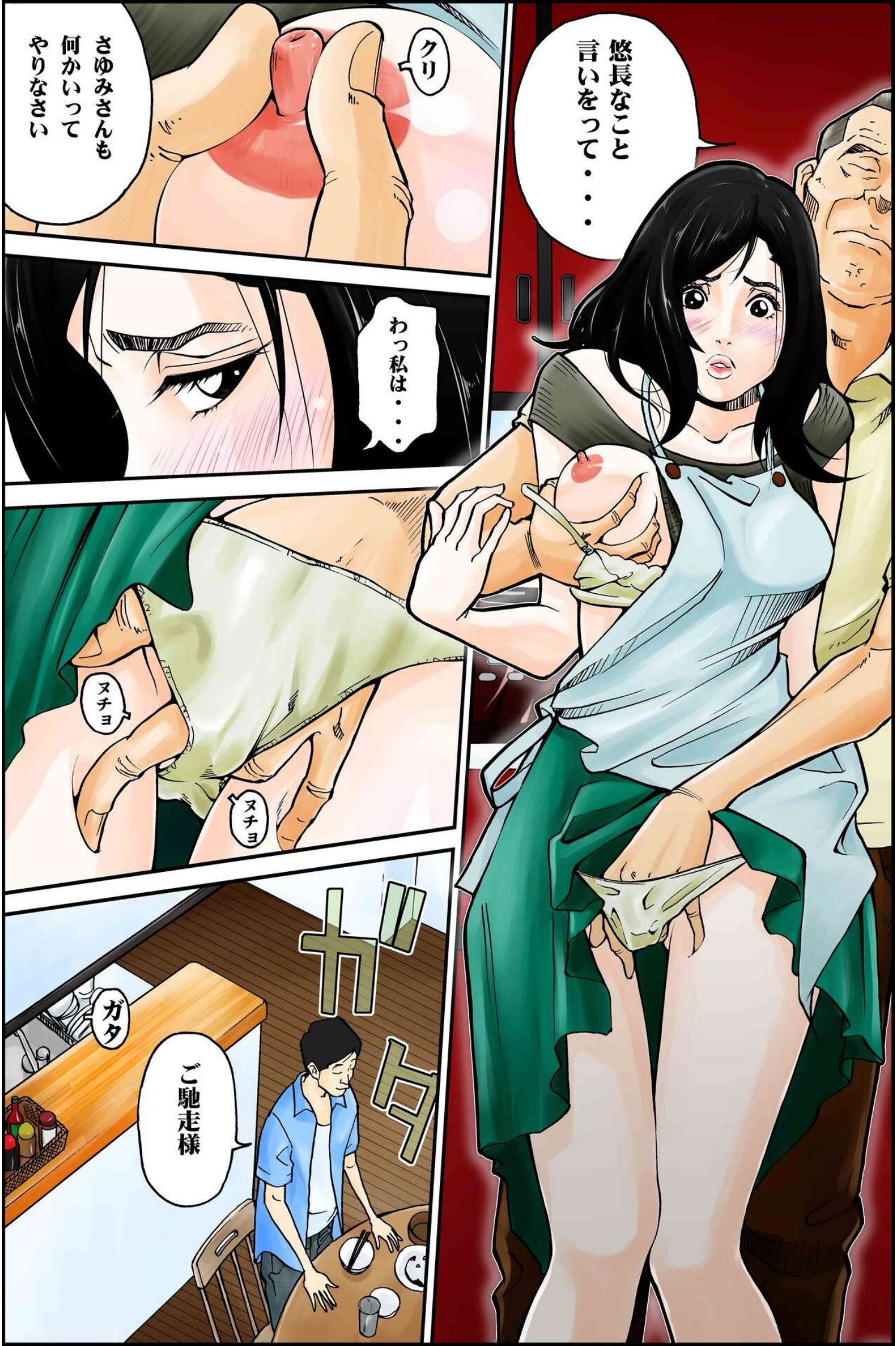
ヌチヨ

ヌチヨ

ガタ

ご馳走様

ガタ
ガタ





部屋に
もどったの
・・・かしら



あれっ
オヤジは？
えっ



そっ
じゃ風呂
入ってくるよ



あっ

うん

ほいほいれ
さゆみさん マン汁の出方が違う
緊張は女を高めるんじや

今日の夜は
孝一のチンポしっっかり啜えこんで
孕んじやいなさい

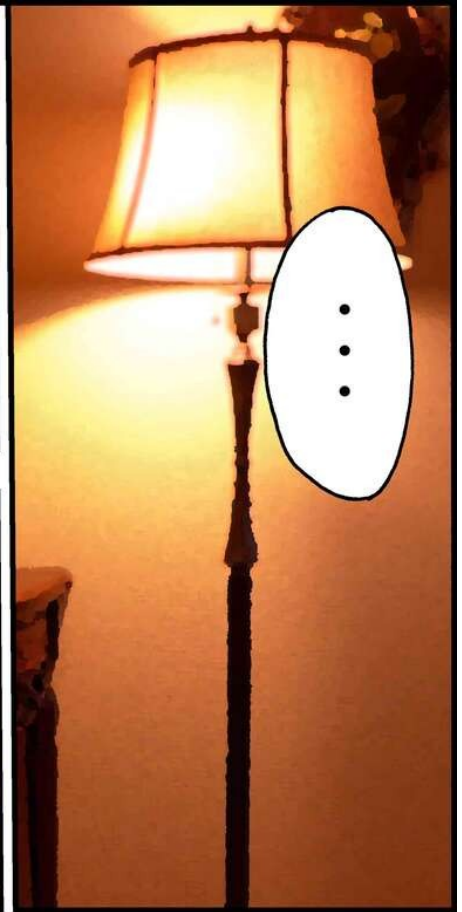
子ヨ

子ヨ

しっ
っ



あのね
今日・・・
排卵日なの



・・・



おやじに
何か言われたんだろ
あせらなくていいよ
それに
同じ屋根の下にいると
思うと
・・・
そんな気になれないし



そっだね
ゴメンネ

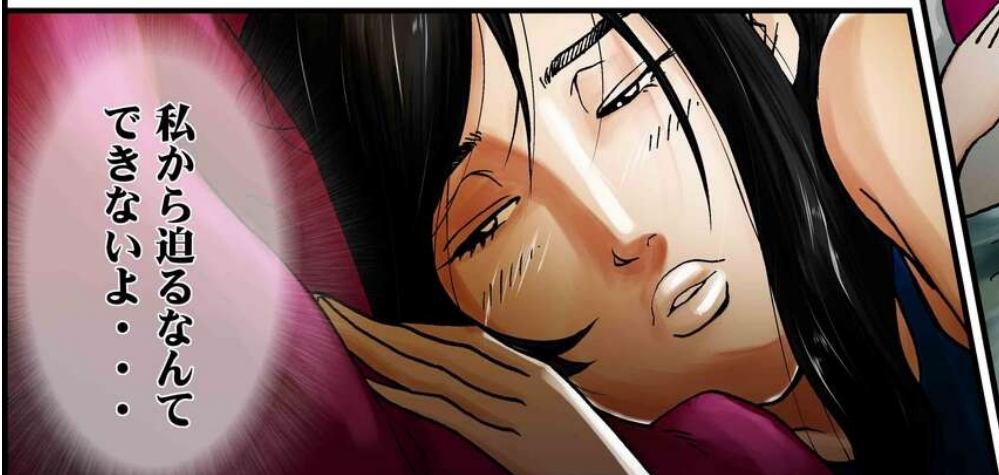
謝ることなんかじゃ
ないだろ・・・
今日は寝よ

うん

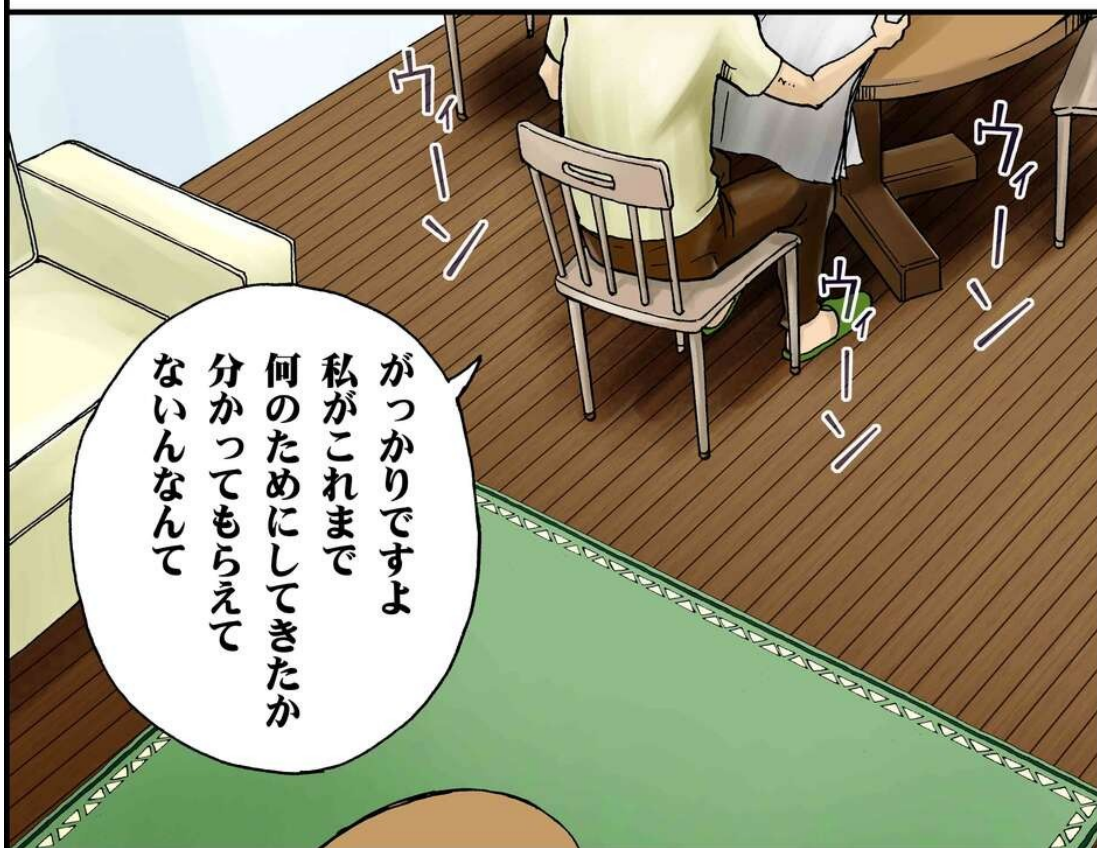
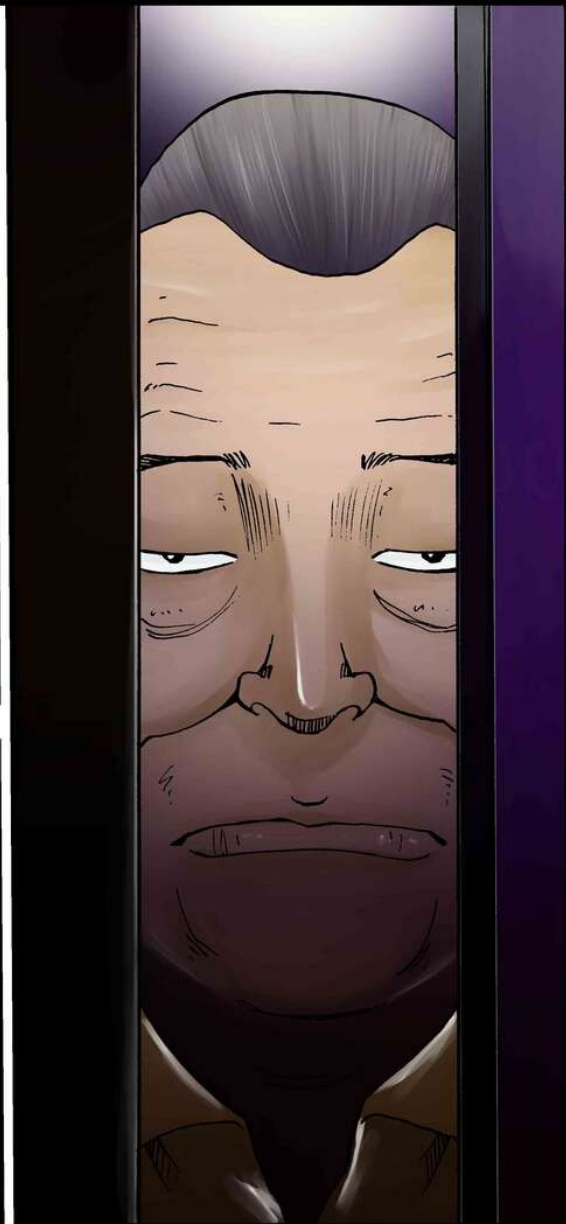
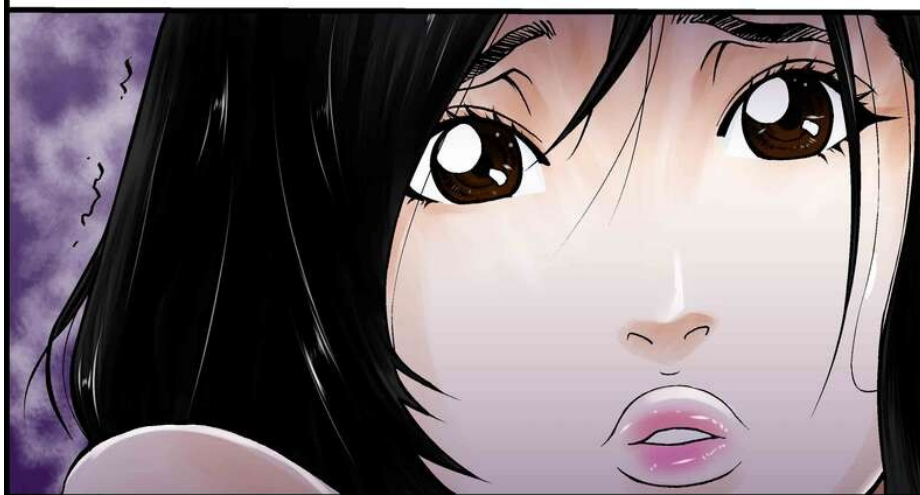


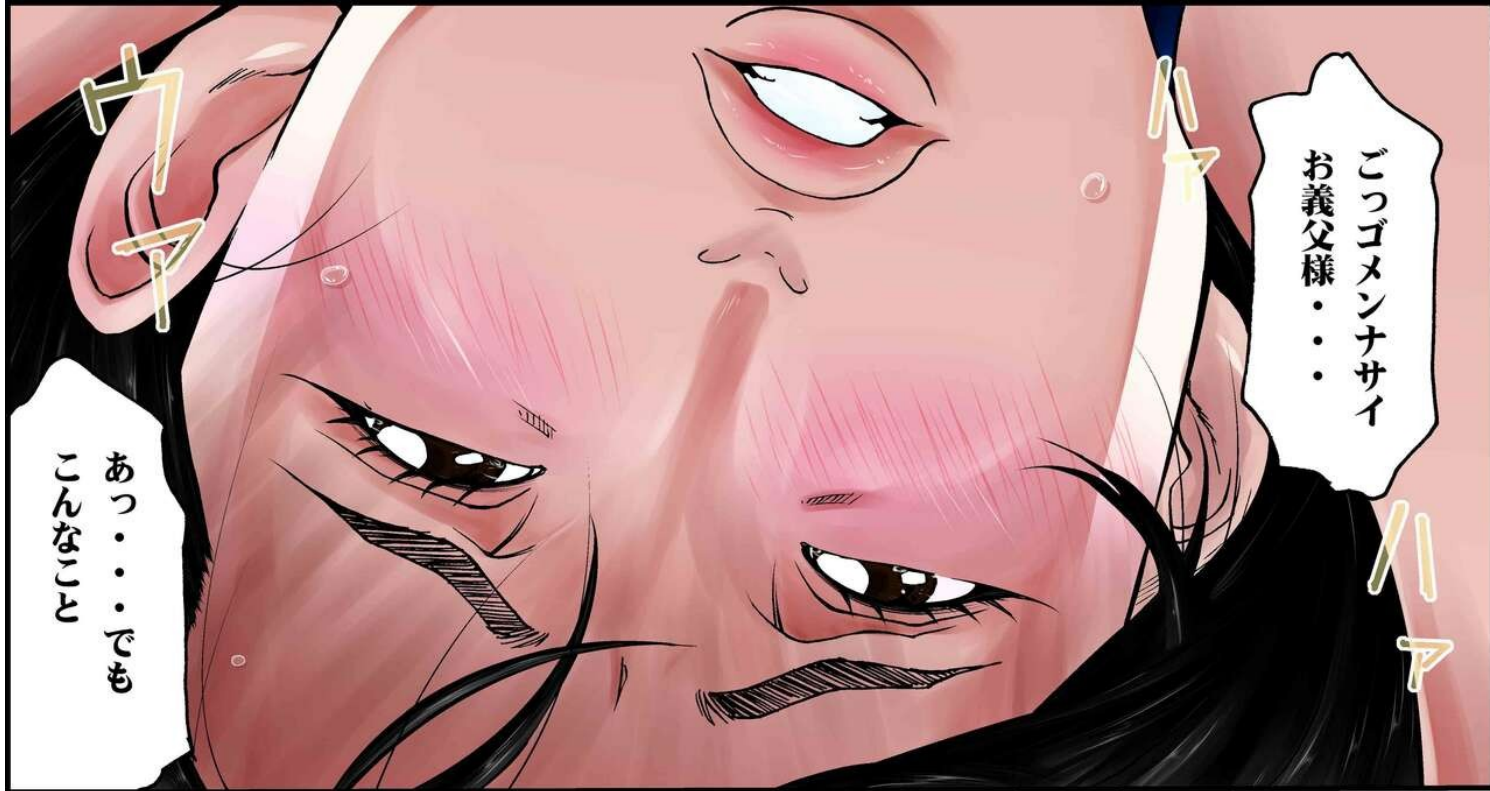
おやすみなさい

どうしたら
いいんだろう



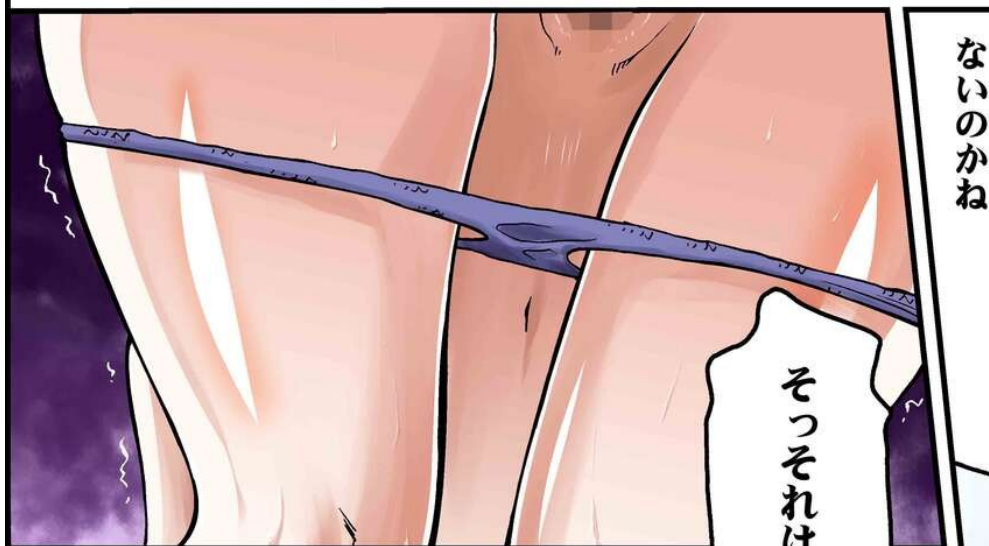
私から迫るなんて
できないよ・・・





ごつゴメンナサイ
お義父様……

あつ……でも
こんなこと



そつそれは……

私だつて
こんな事したくないですよ
ただ さゆみさんは
覚悟が足りないんじゃないかね



あつああ
お義父様あ





もっもう
ゆるして

ブクブク

抜いてく...
ださい
お願いします



まだまだ
さゆみさんには
一皮むけてもらわんな

このままじゃ
安心して
帰れんじやろ



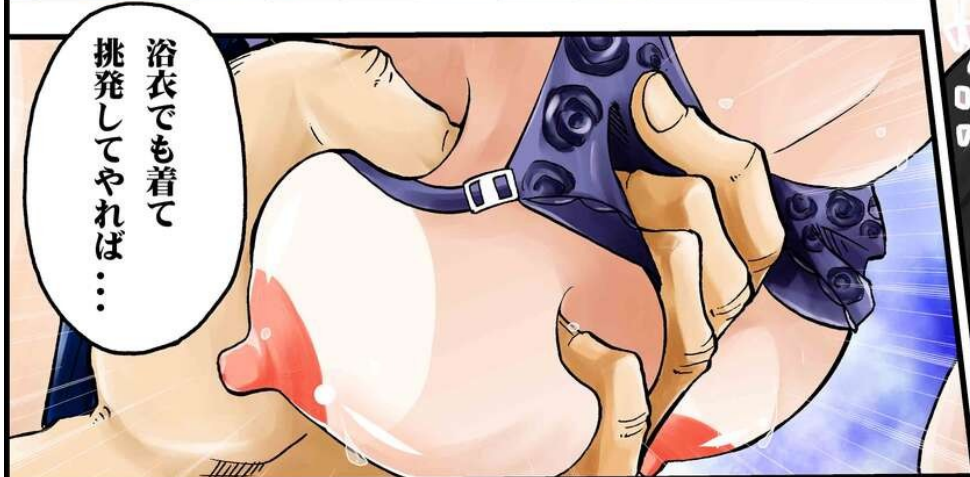
すみません
でも明日なら
孝一さん……も

明日
何かあるん
ですか？



あぁ

ほう
それはそれは
盛り上がりますね

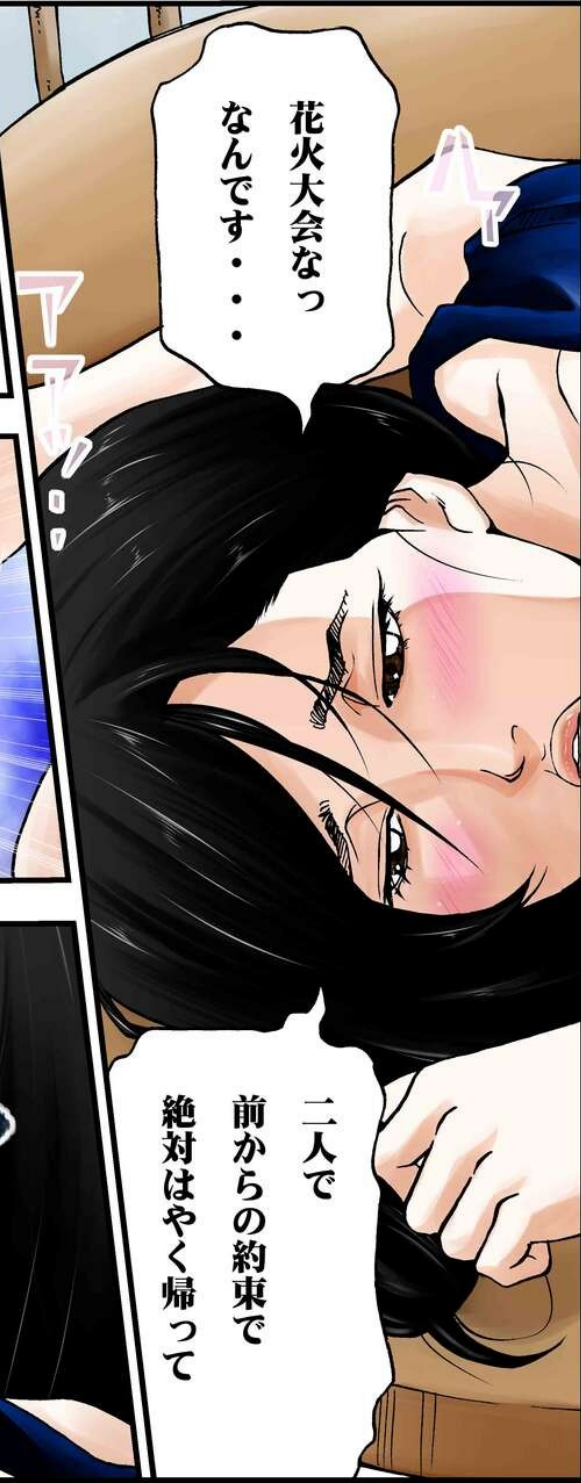


浴衣でも着て
挑発してやれば……



んあ

二人で
前からの約束で
絶対はやく帰って





無理です
もうヤメテえ



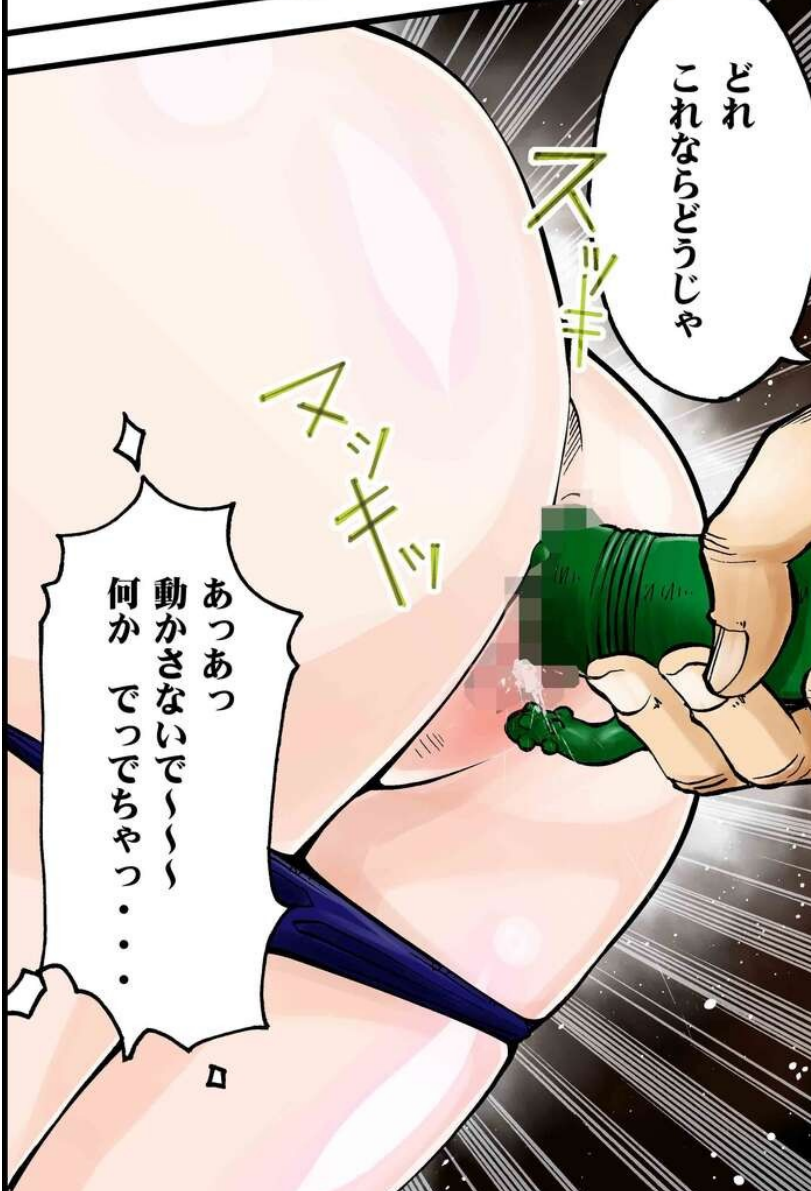
そらっ
もっと奥ツ子宮で
受け止めろっ



そんなはずない
さゆみさんのマンコ
喜んでるように
みえるぞ

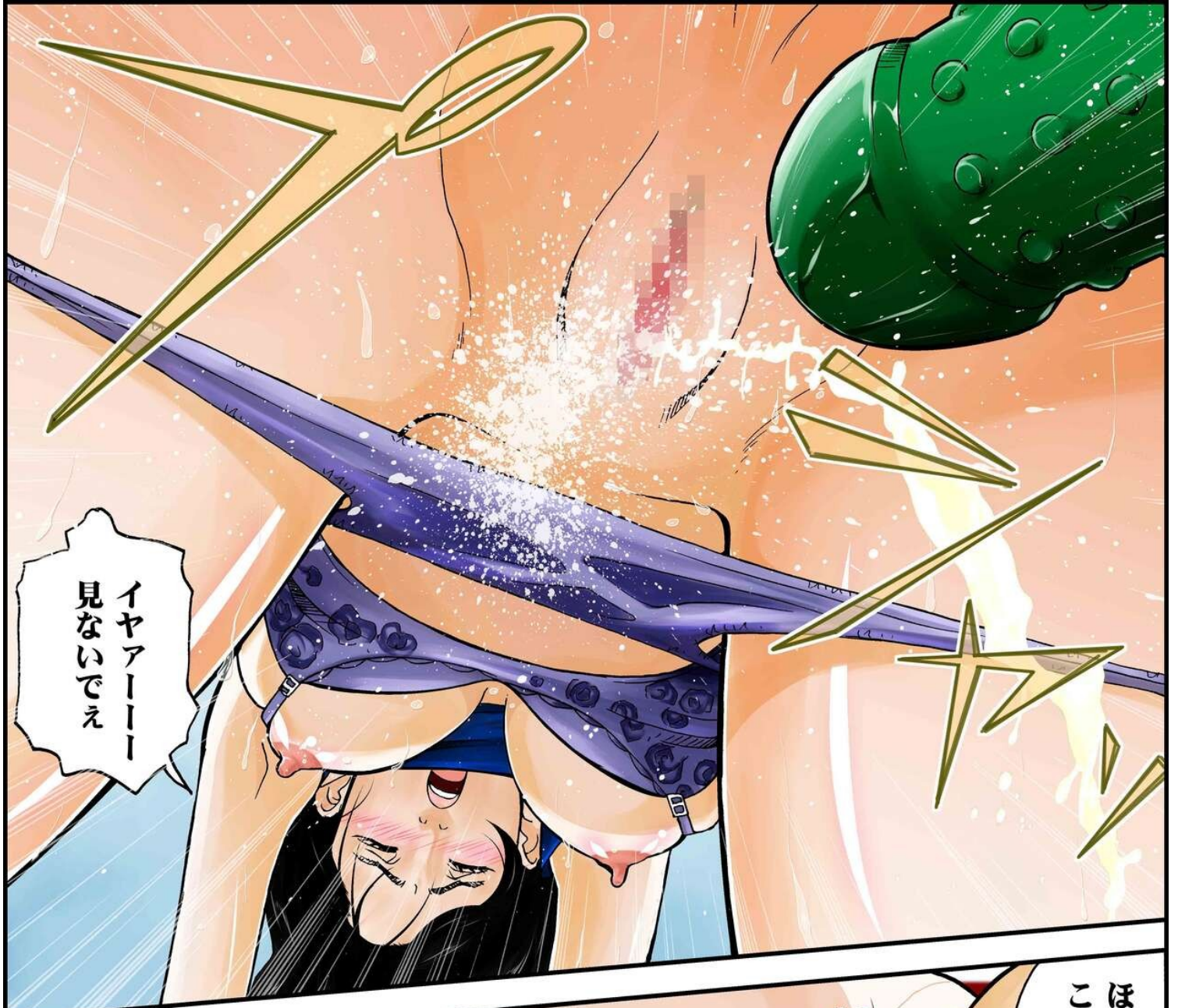


こっ怖い・・・
身体の中に別の生き物が

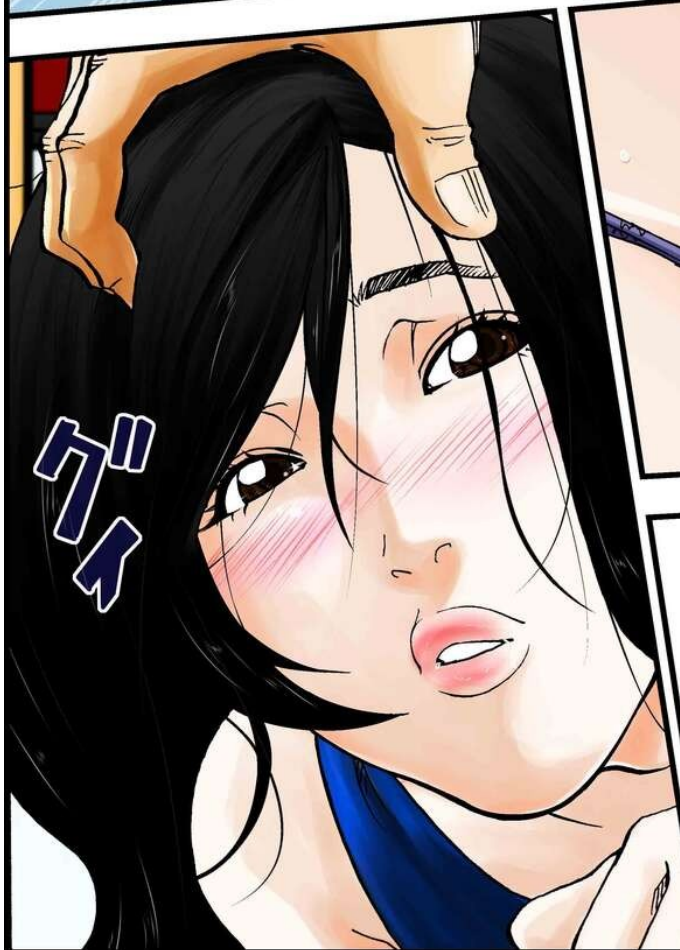


どれ
これならどうじゃ

あつあつ
動かさないで〜
何か でっでちやつ・・・



イヤアーイー
見ないでえ

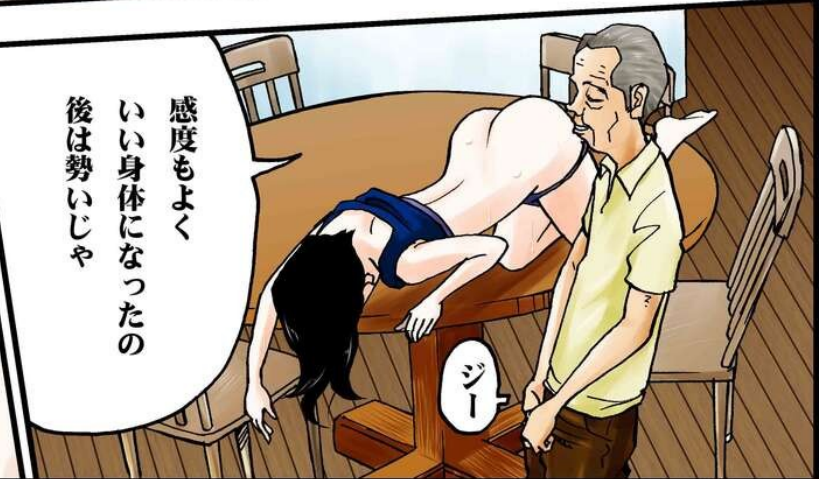


ガイ



ペシャ
ペシャ

ほっほ
こんなに噴出して

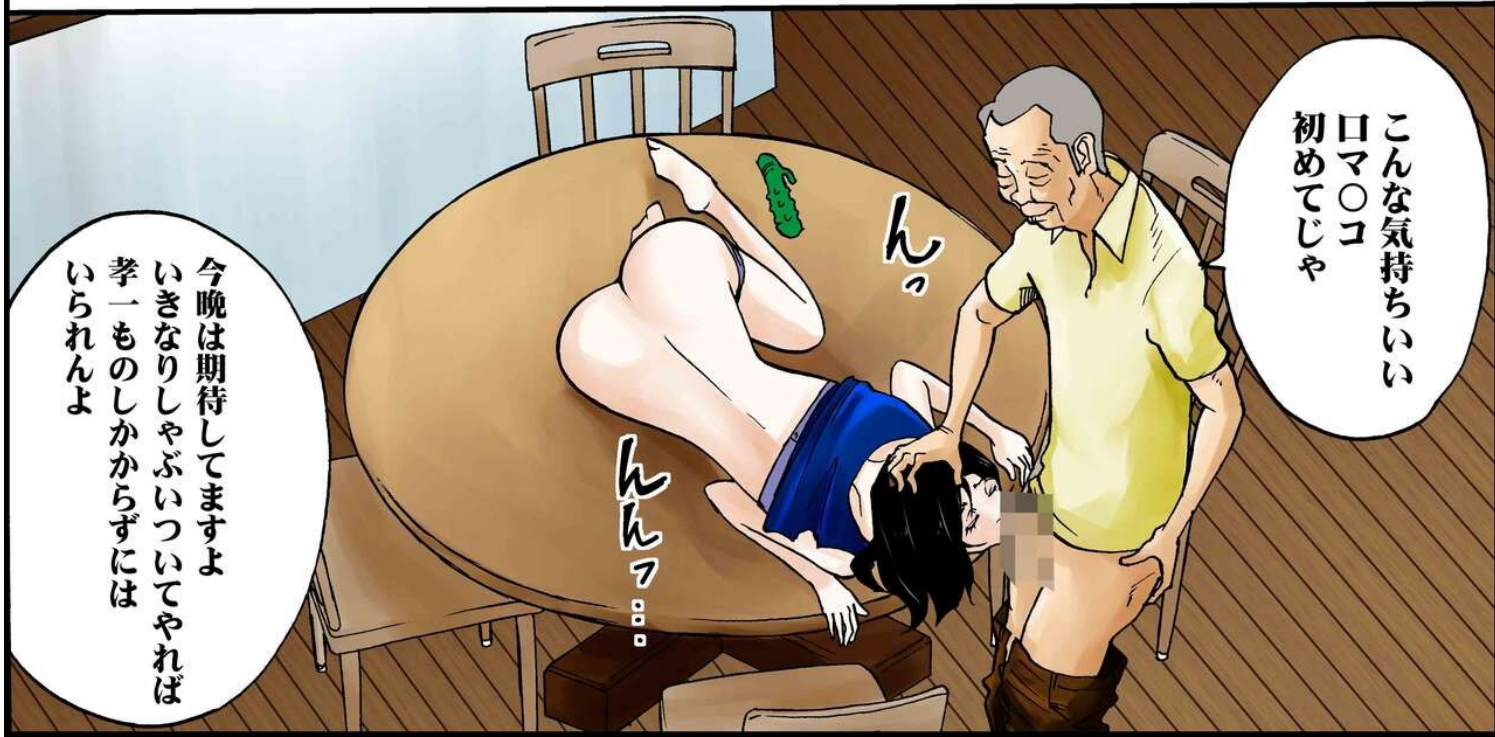
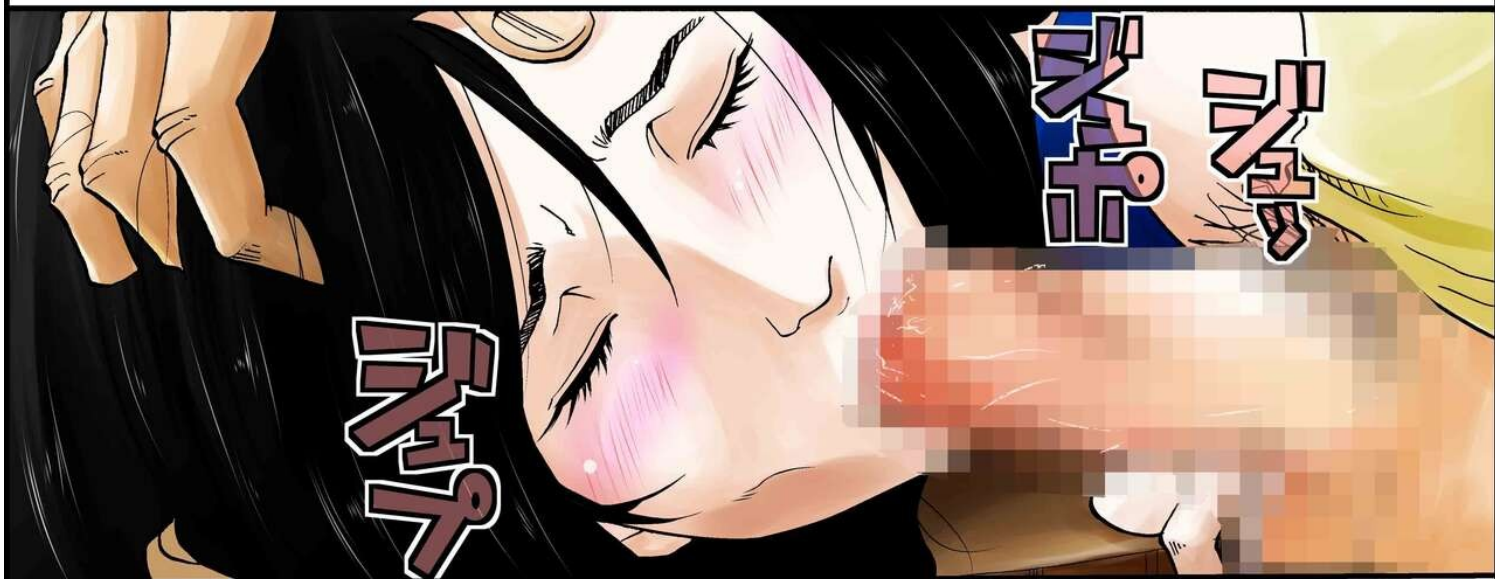
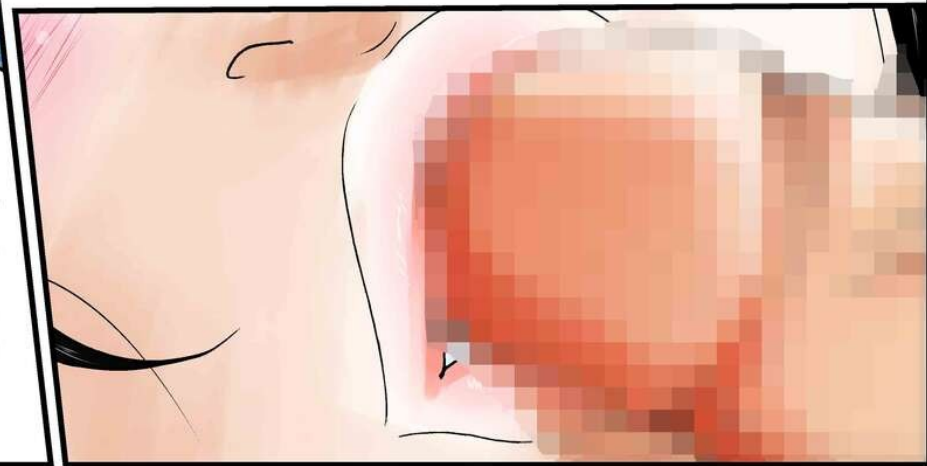


感度もよく
いい身体になったの
後は勢いじゃ

ジー

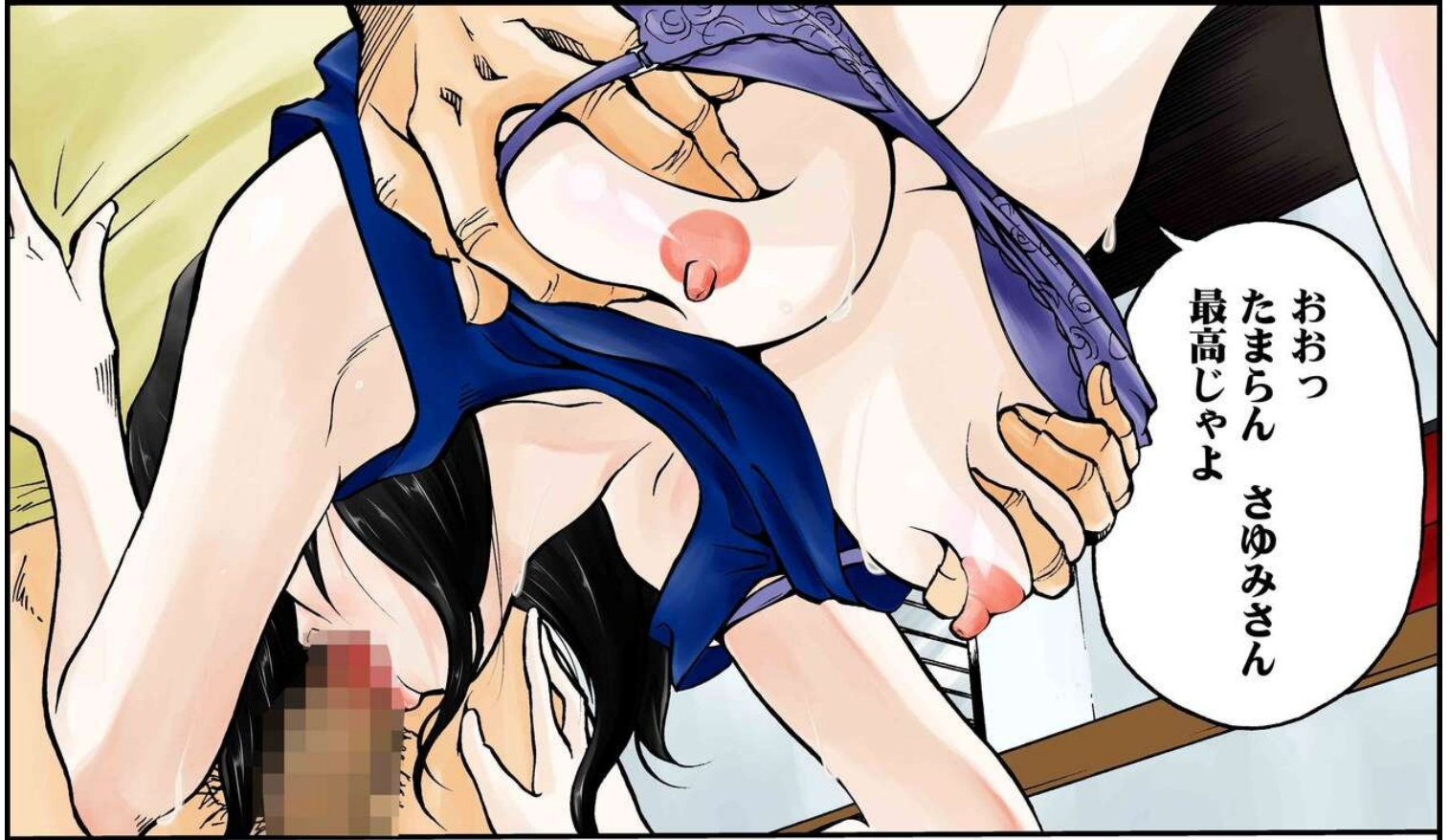


さゆみさんの
ポツテリした唇を
押し開く瞬間が
たまらんなア

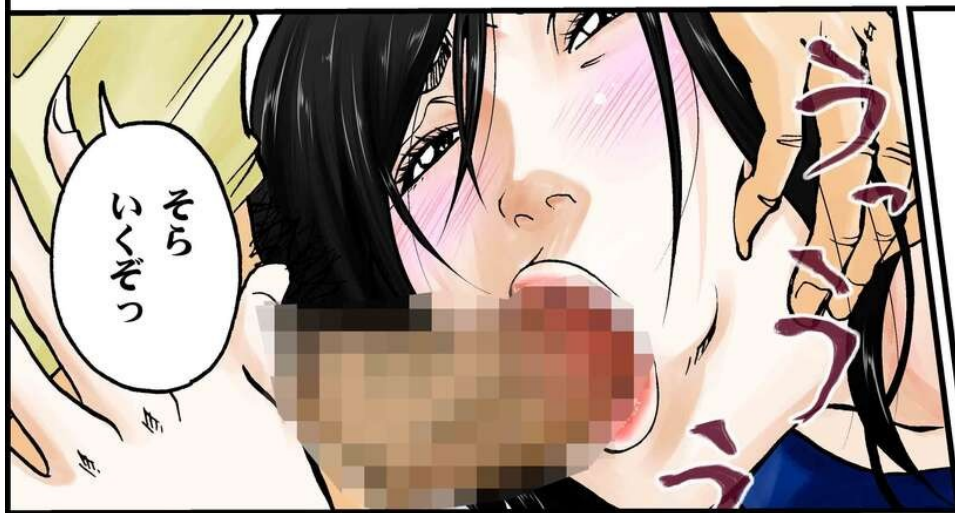


こんな気持ちいい
口マ○コ
初めてじゃ

今晩は期待してますよ
いきなりしゃぶについてやれば
孝一ものしかからずには
いられんよ



おおっ
たまらん さゆみさん
最高じゃよ



そりゃ
ごんごん



うっうう
ええじゃろこのまま
飲むくらいは
なっなっ さゆみさん



ゴクリ...

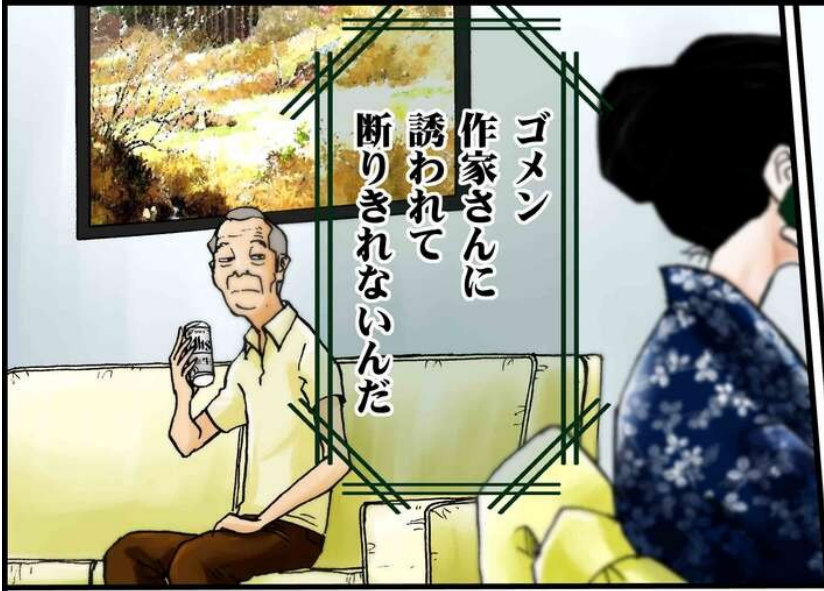
この時
私は女として
初めて男性の
精液を嚙下した

夫のものでなく義父の...

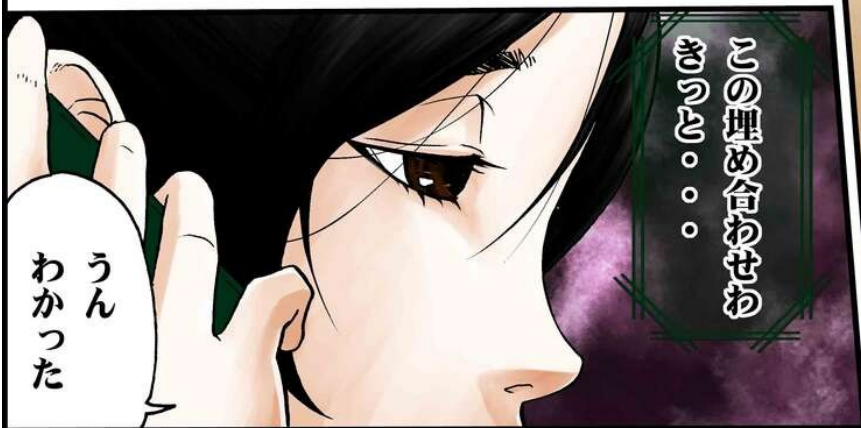


ジュポ

ジュポ



ゴメン
作家さんに
誘われて
断りきれないんだ



この埋め合わせ
きつと。。。

うん
わかった



お義父様

しかたない
まったく我が息子ながら
くそ真面目で
つまらん男だ



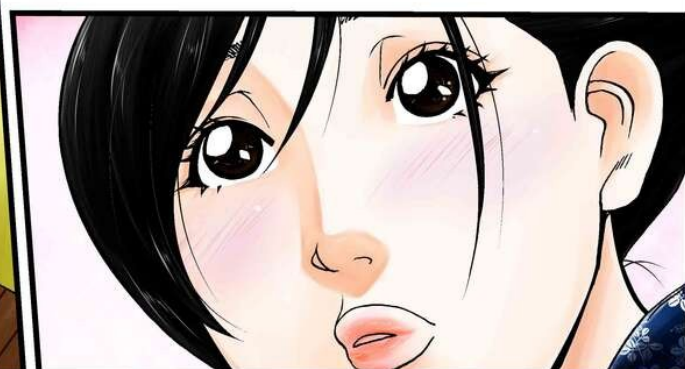
よしっ

カニッ



えっ
ウソでしょ

ずっと前からの
約束だったじゃない





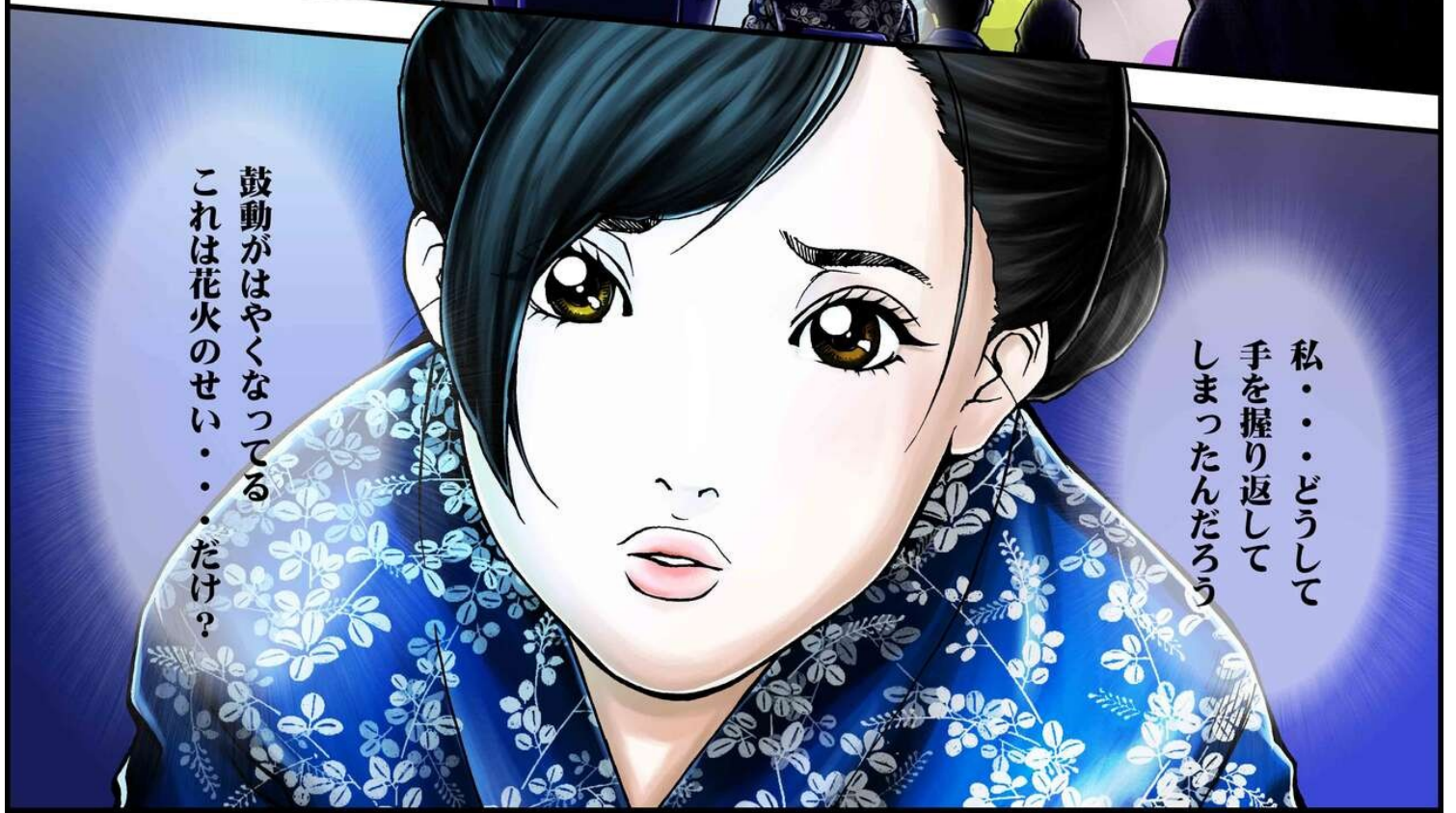
意外な言葉だった
最初は怖かったけど
この義父は義父なりに
義母を思っていることなんだと
思うと……





鼓動がはやくなってる
これは花火のせい・・・だけ？


私・・・どうして
手を握り返して
しまったんだらう





イヤッ
やめてください
こんな事

ほら
動くな
黙って言う通りに
しなさい

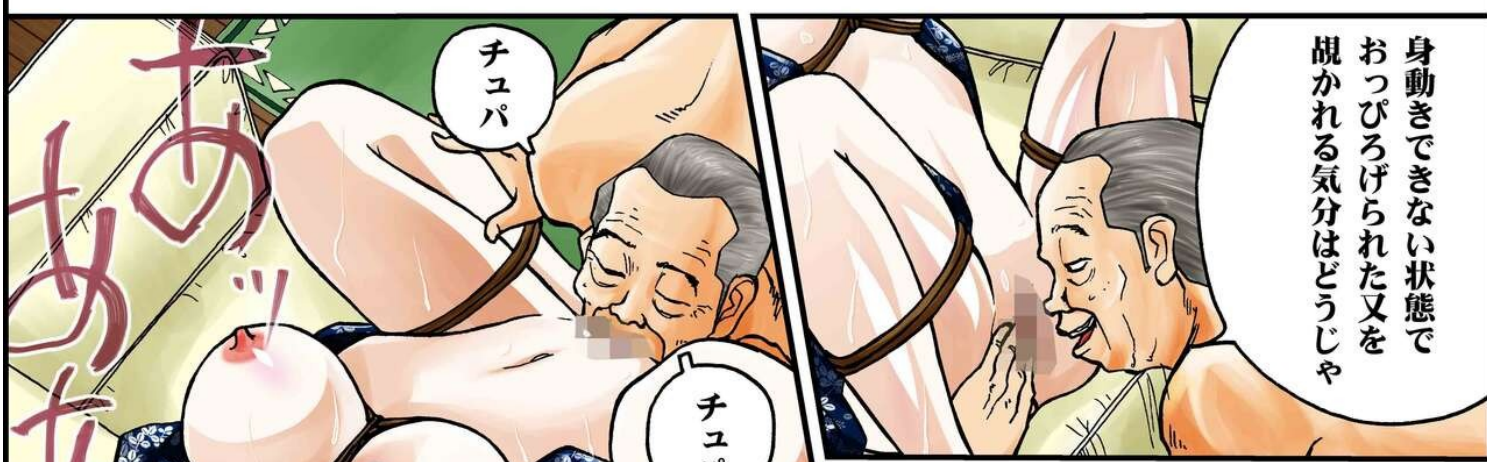


ほうれ
いい眺めじゃ さゆみさん
白い肌に食い込んだ縄
張り詰めた乳房
孝一が見たら
喰らいつくぞ

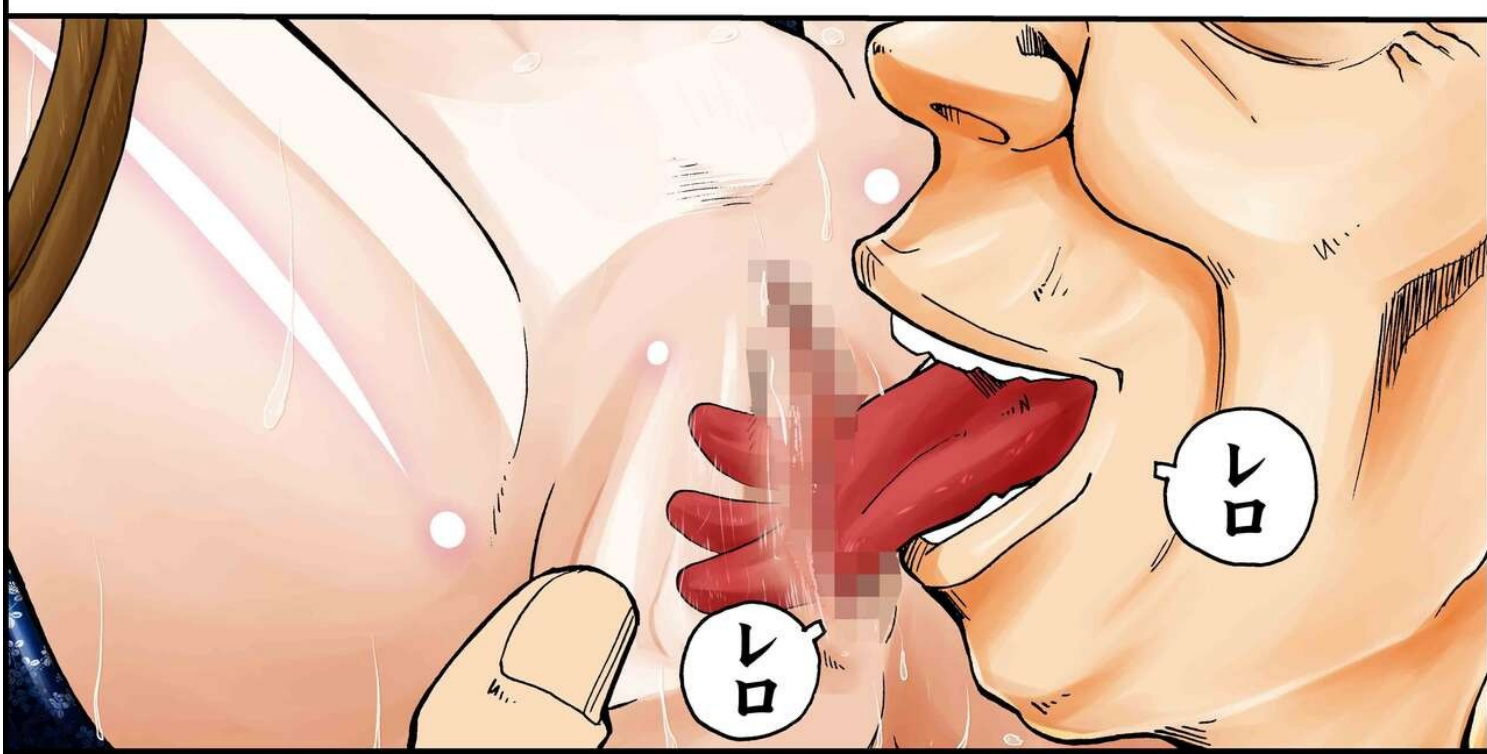


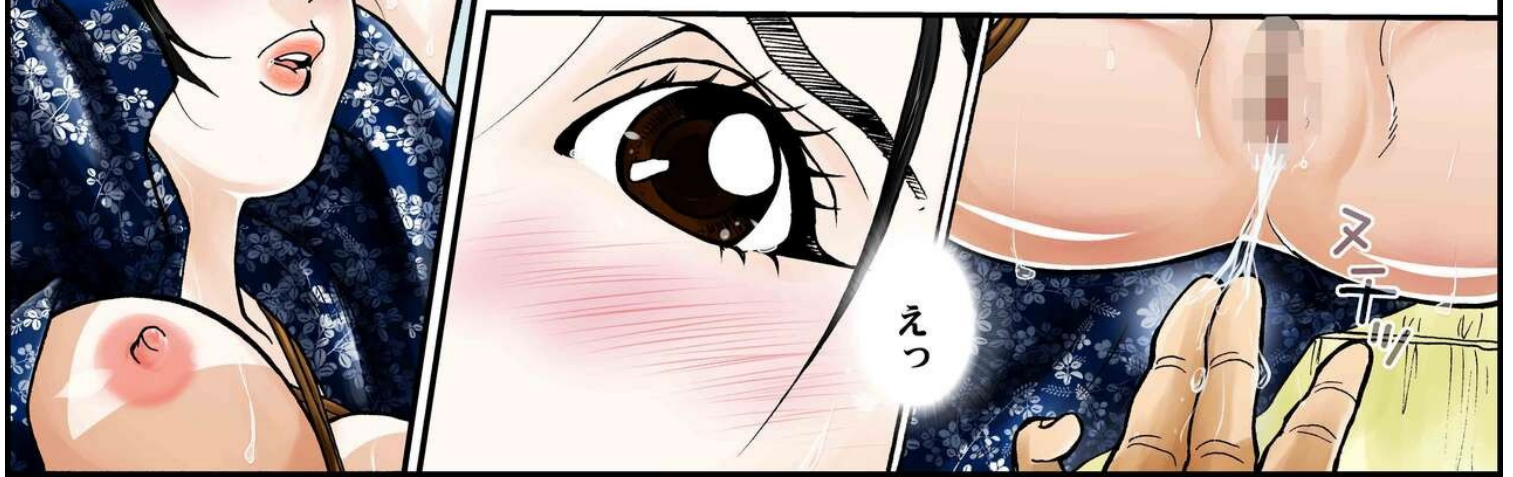
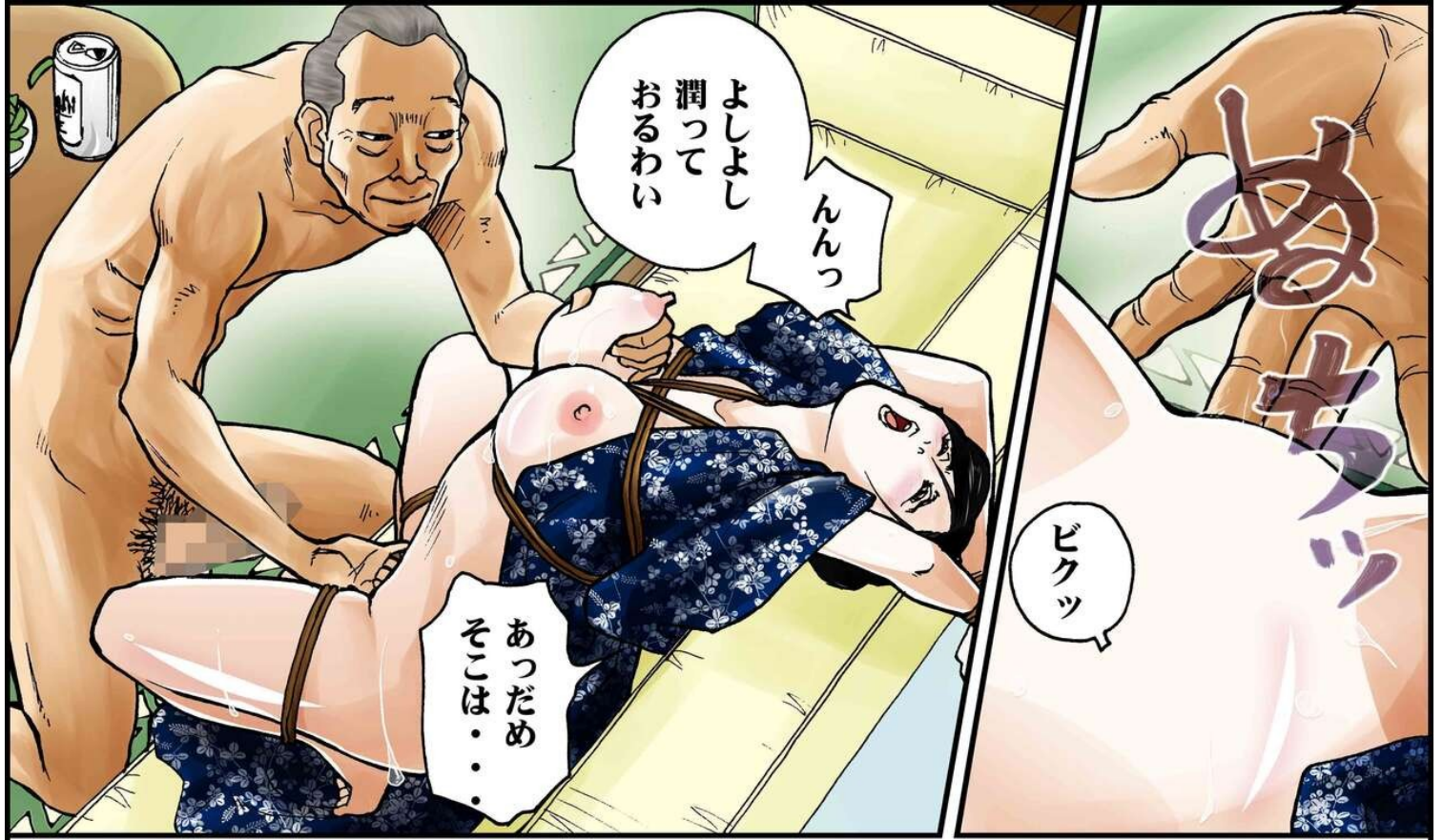
さゆみさん
夫婦といえども
必ず飽きがくるもん

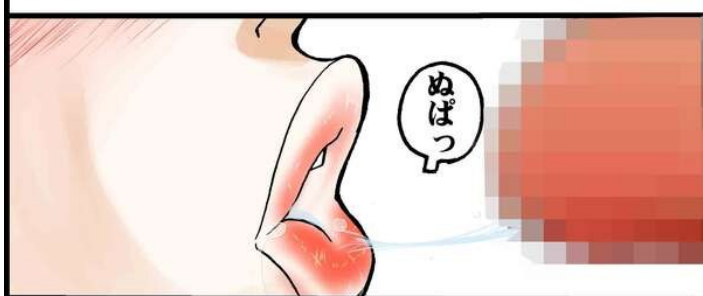
そんな中に刺激を
あたえてやることが
長続きの秘訣じゃ

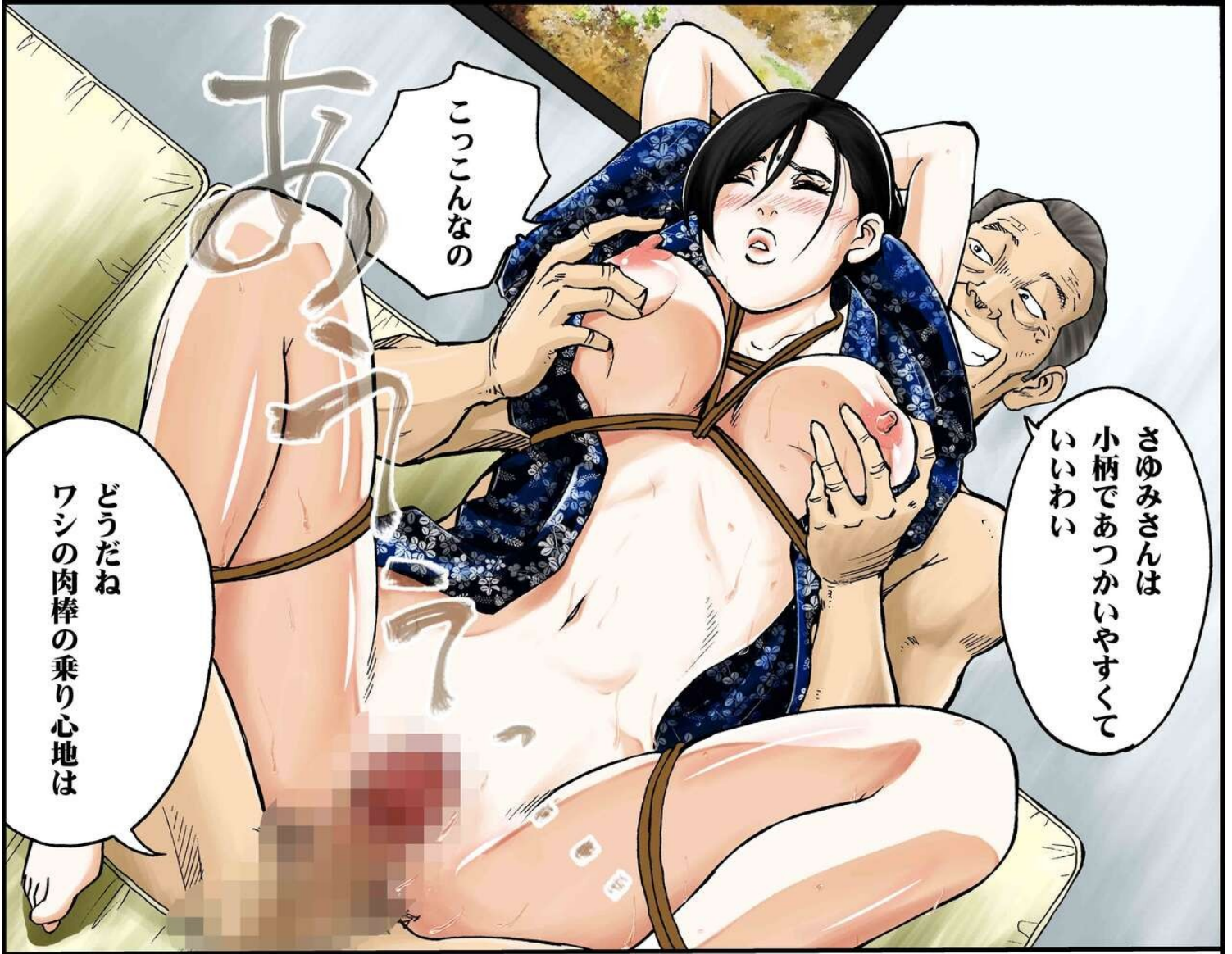


身動きできない状態で
おっぴろげられた又を
覗かれる気分はどうじゃ









こっこんなの

さゆみさんは
小柄であつかいやしくて
いいわい

どうだね
ワシの肉棒の乗り心地は



ずるい
お義父様

何がズルイ
言ってみなさい

んんんっ
マ○コのヒダが吸盤のように
吸い付いて何とも言えん



熱い・・・大きい・・・
男の人のモノを
こんな風に感じた事
今までなかった



又干ヤ



いやっ
動かさないで



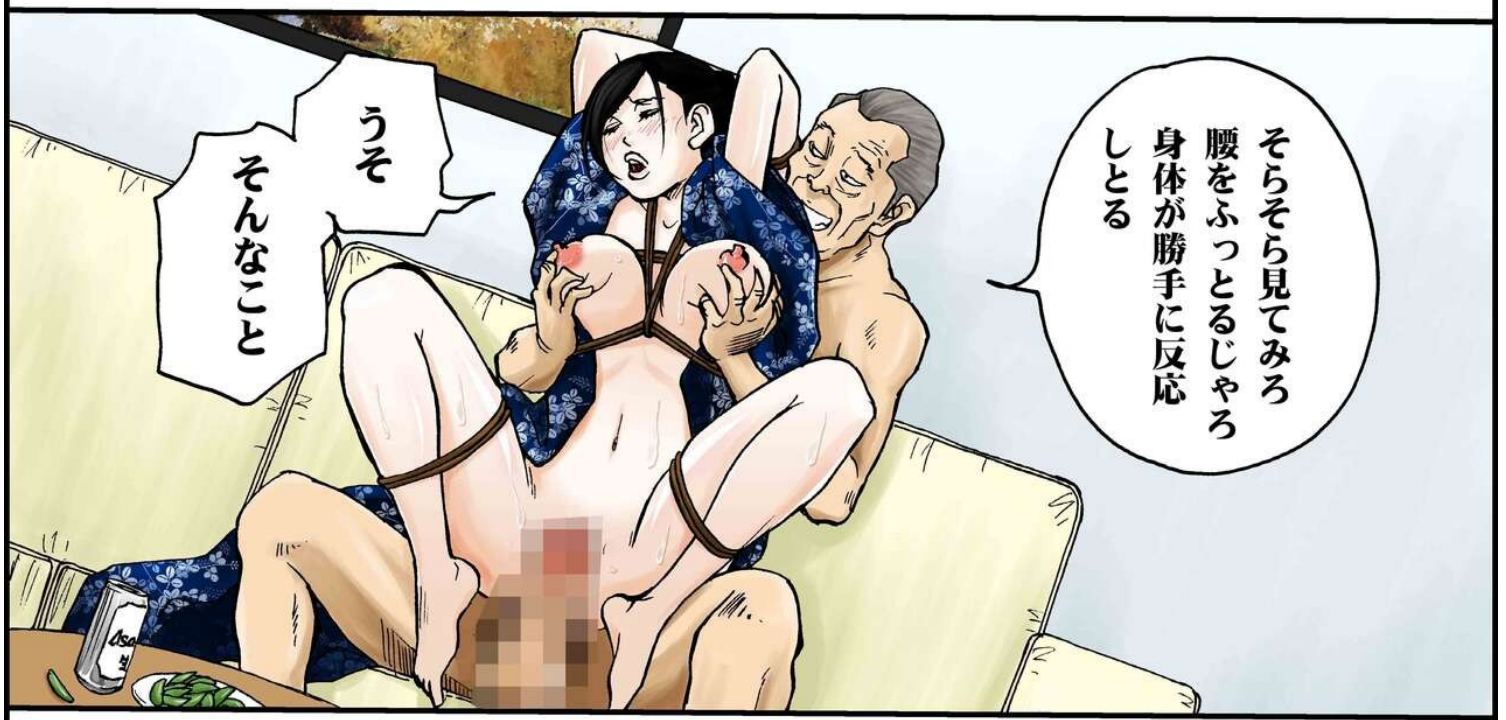
ヒュッ

チュッ



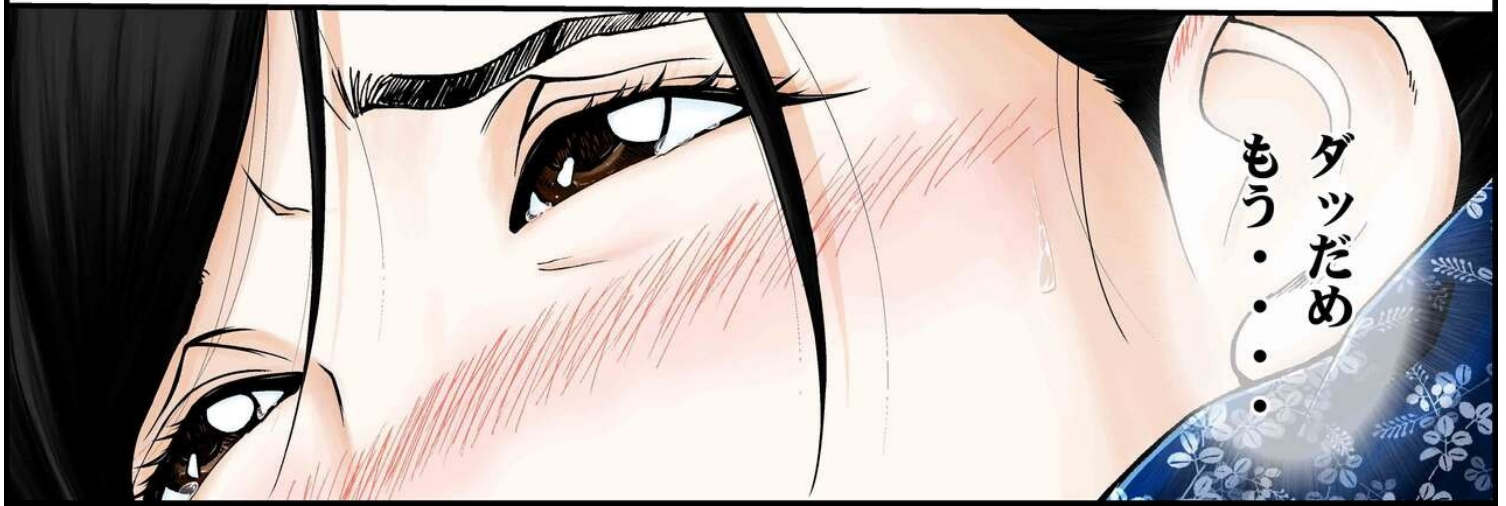
ワシじゃないぞ
さゆみさん
あんただろうが

ちっ
違います



そらそら見てみろ
腰をふつとるじゃろ
身体が勝手に反応
しとる

うそ
そんなこと



ダッだめ
もう・・・

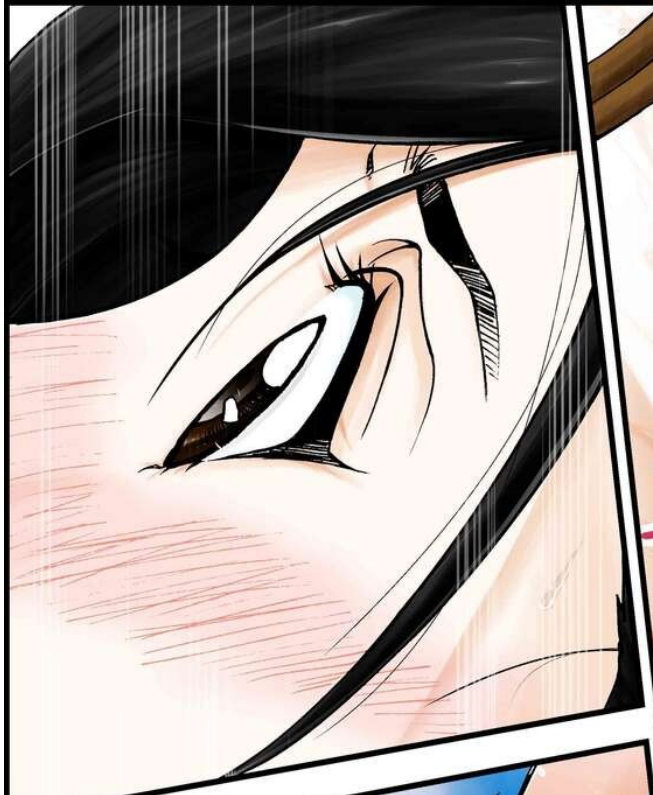
してください
お義父様のモノで

これ以上
意地悪しないでーっ

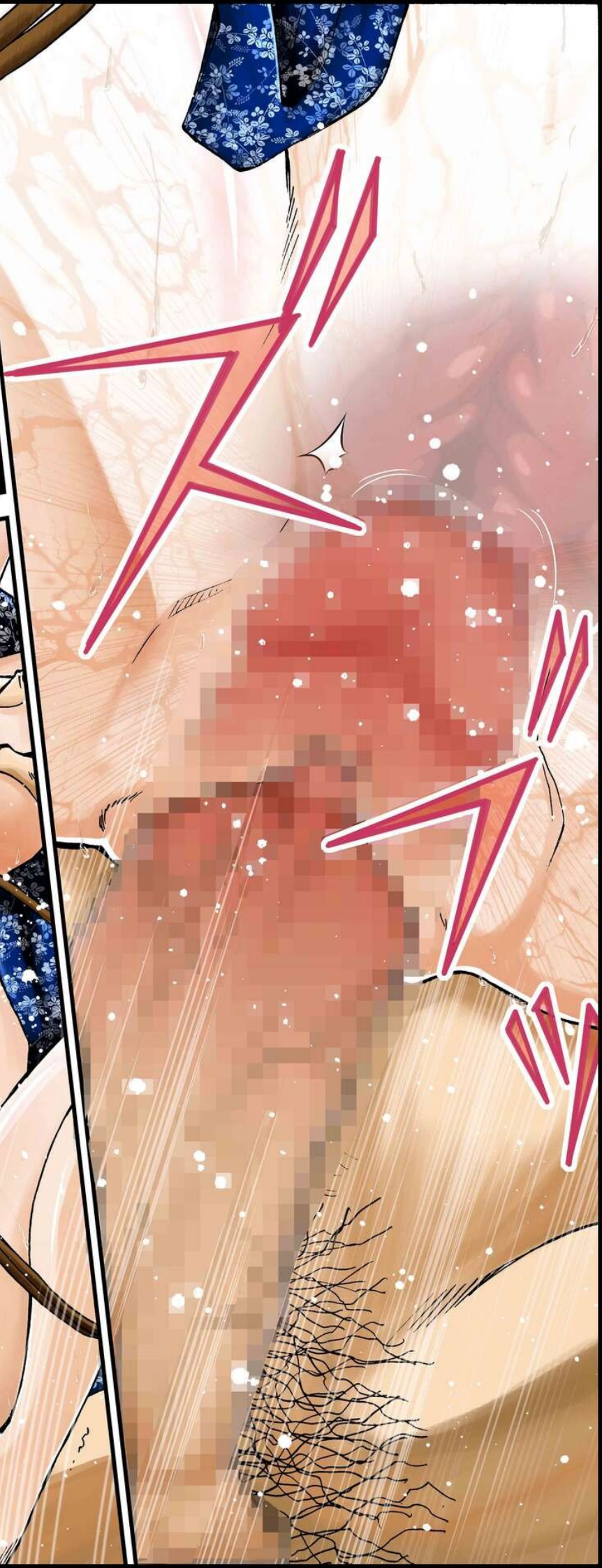
さゆみさんは
悪い嫁さんじゃのオ

ワシに息子を
裏切るようなことを・・・

十口ッ



なっ 何この圧迫感
孝一さんとは全然違う
まだなの さらに奥に
熱く太いものが
内臓を押し上げてくる...



ほーれ
しつかり根元まで
くわえ込んだぞ

どうだ
ワシの一物の味は

ア
ア
ア

ヌテツ

ブ
ブ

孝一さん
ゴメンネツ
ゴメンナサイ……



はうっく



おっお義父様



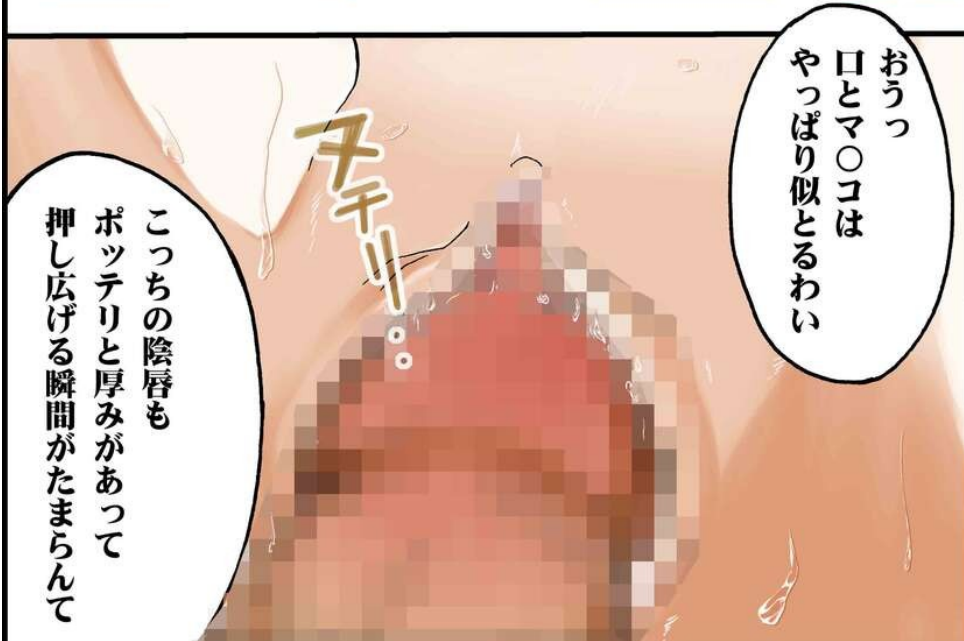
なんじゃ
こんなことで
まだ 入り口...

ハア

これじゃ
ワシがはてるまでも
たんじやないか



こうなっちまった
からには
さゆみさんの身体
味わい尽くさせて
もらわにやの



おうっ
口とマ〇コは
やっぱり似とるわい

こっちの陰唇も
ポツテリと厚みがあつて
押し広げる瞬間がたまらなくて

フキリ!!



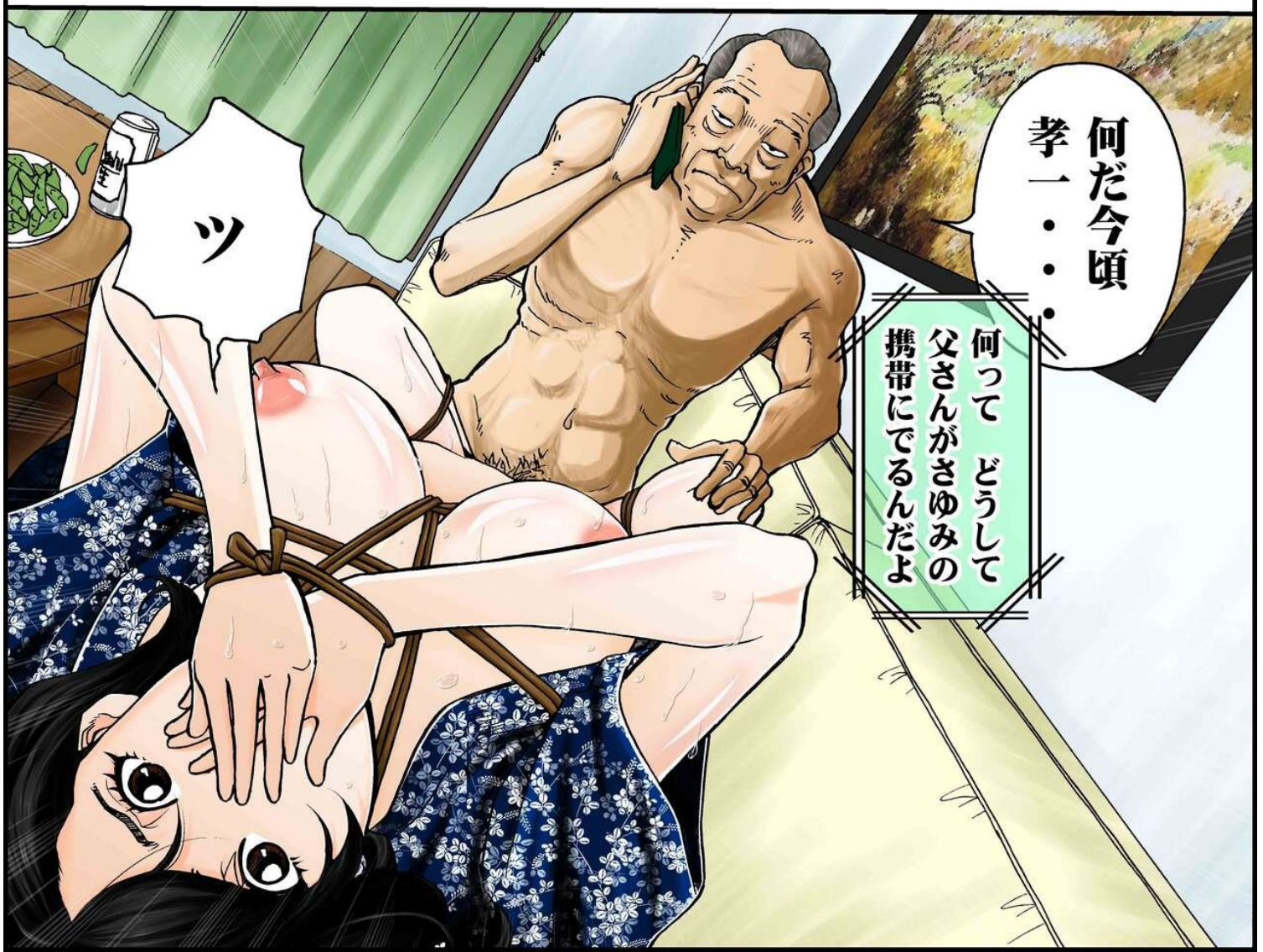
あーく
あーあ



だめっ
このままじゃ私……



着信中
孝一さん



何だ今頃
孝一……

何って どうして
父さんがさゆみの
携帯にでるんだよ



まったく
仕事とはいえ
妻に寂しい思い
させるヤツがあるか

わかったよ
とにかくさゆみに
変わって

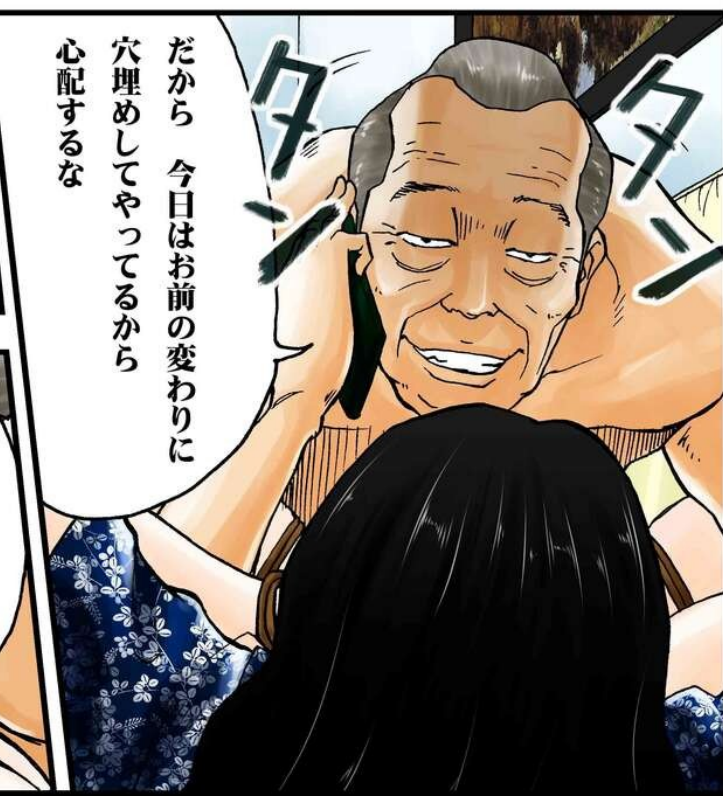


さゆみさんは
今っ出たかないそうだ

せっかく
お前に見せようと
浴衣を新調して
けなげにも
待ったのに



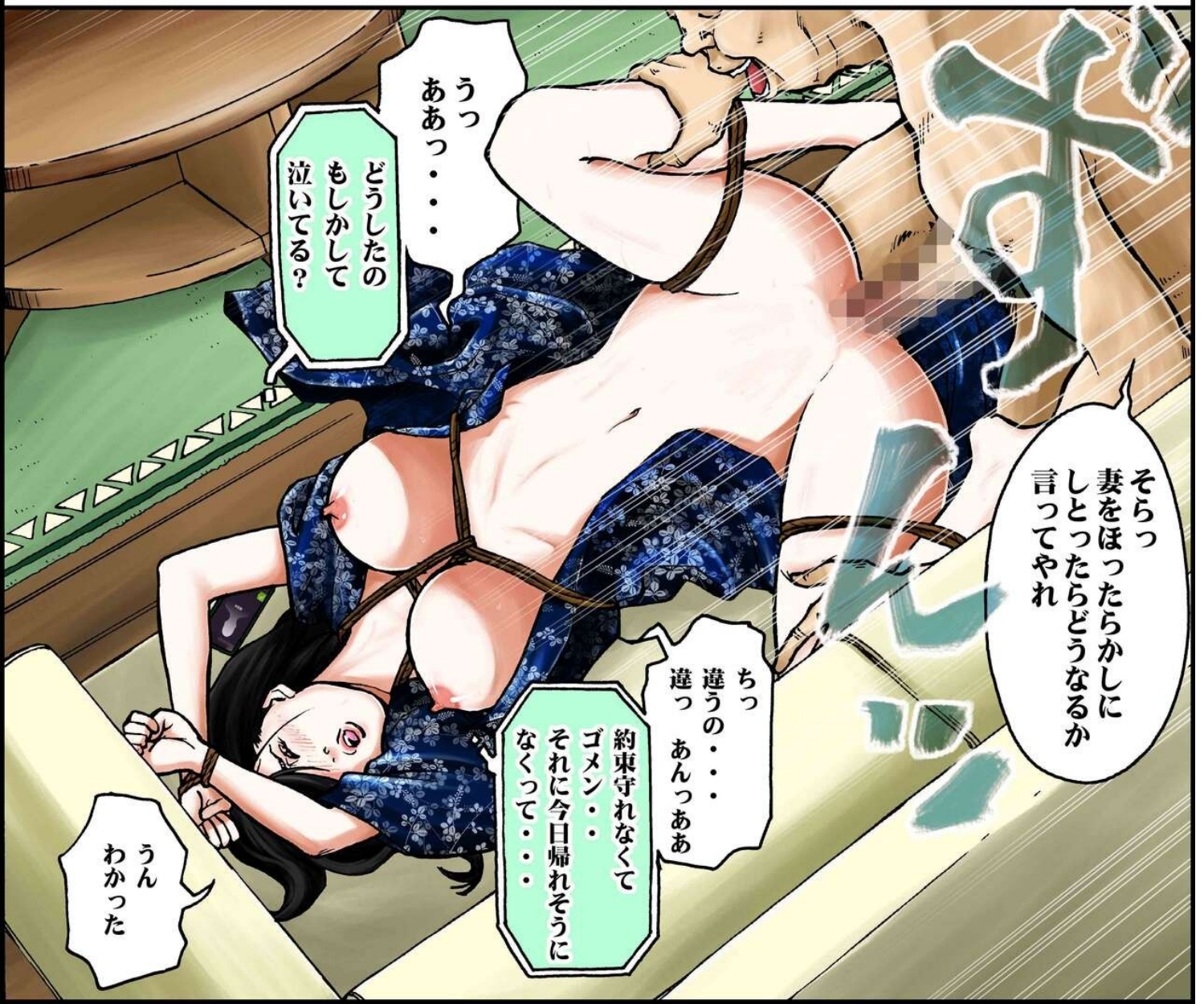
穴埋め？

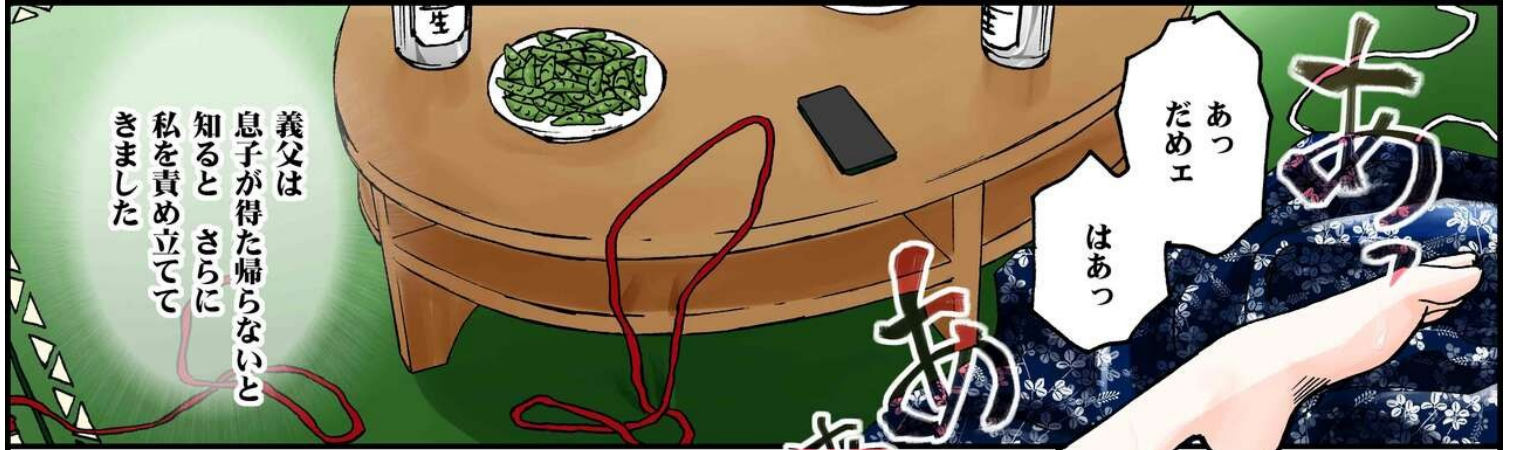


だから 今日はお前の代わりに
穴埋めしてやってるから
心配するな



んっ何じゃ
いいたい事でも
あるのか





義父は
息子が得た帰らないと
知ると さらに
私を責め立てて
きました

あっ
だめエ

はあっ

あ

あ



やめて
くださいっ

そーら
見てみなさい
ワシの肉棒がさゆみさんの
またぐらに刺さっとるのを

ヌッ

ヌッ



ここまで
しちまつといて
諦めの悪い嫁さん
じゃのお

こりや
一発出さないと
覚悟がきまらんのだな



ほっ本当に・・・



おおっ
たっぷり出して
マンコの中が
さらに
ぬめっとるわい

ひんぷい



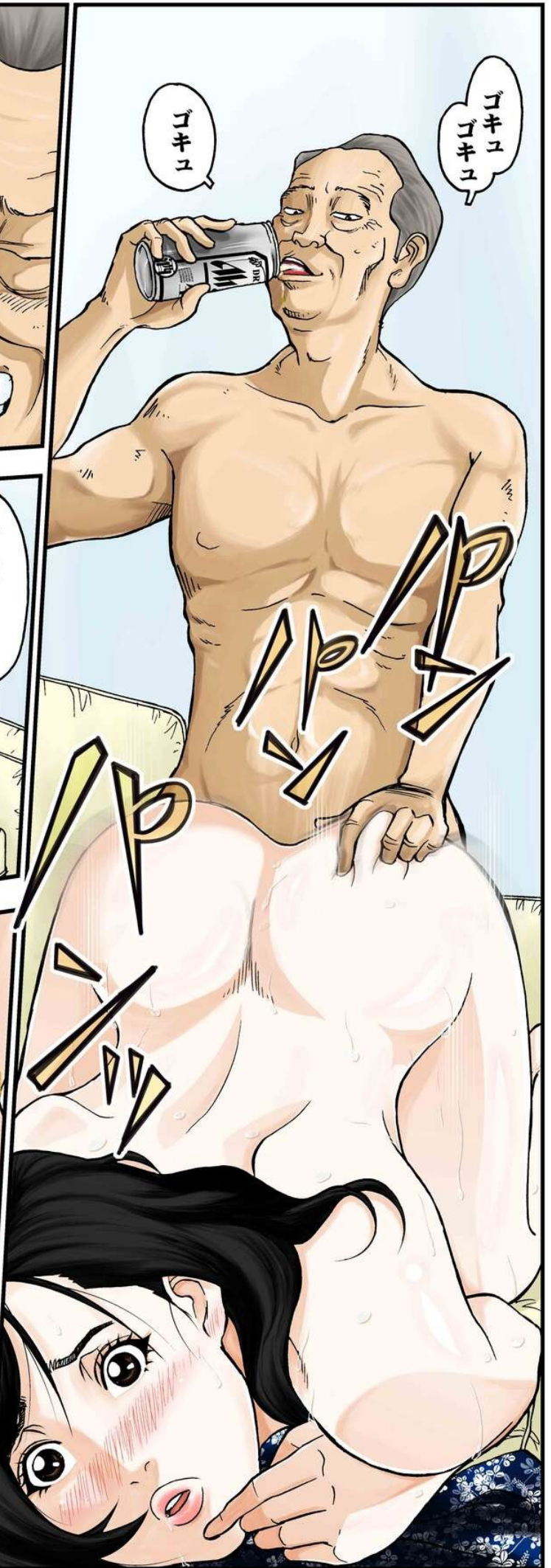
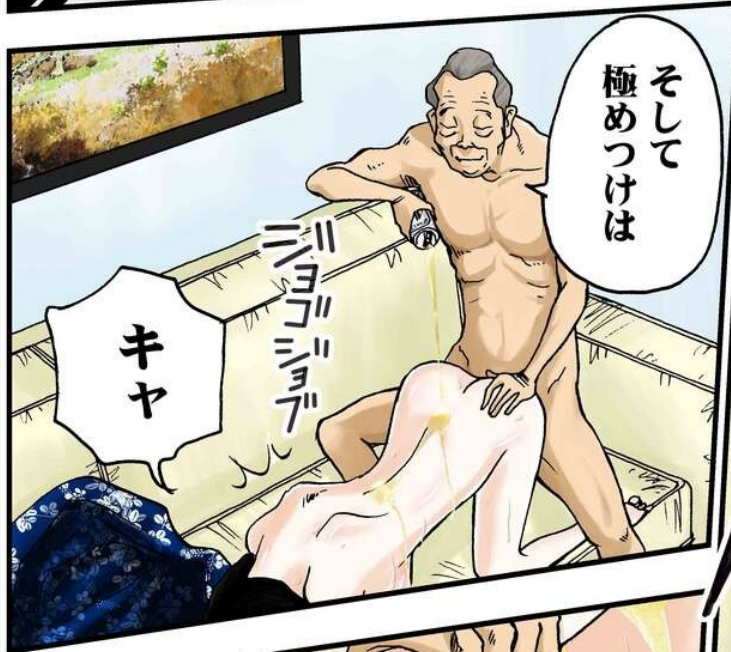
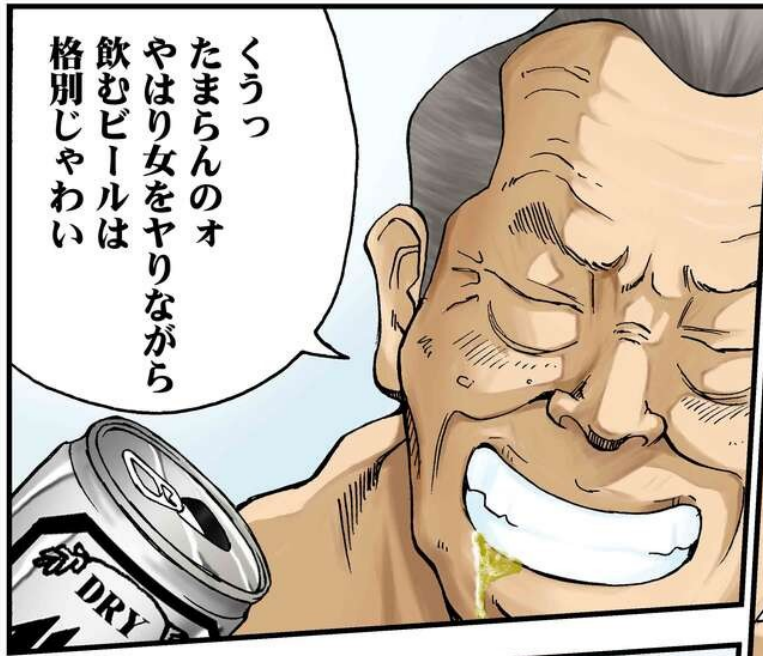
何言つとる
身体は喜んどる
じゃないか



そら 今日祭りじゃ
こんなもんで
終われんぞ ほれ
尻を上げろ

クチュ

あーあーあー

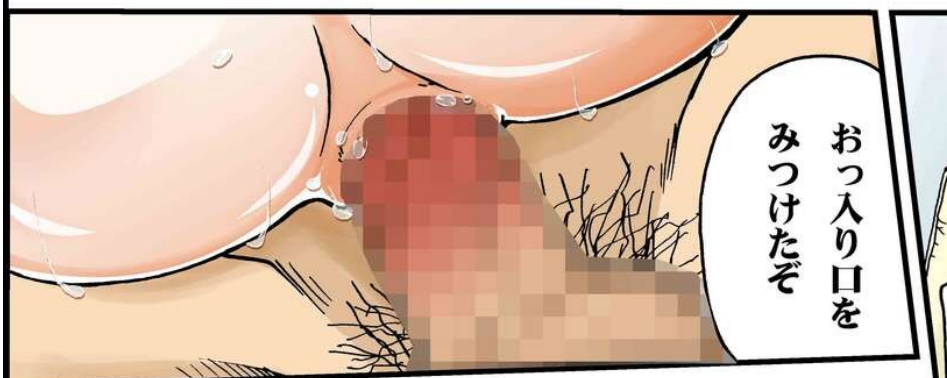




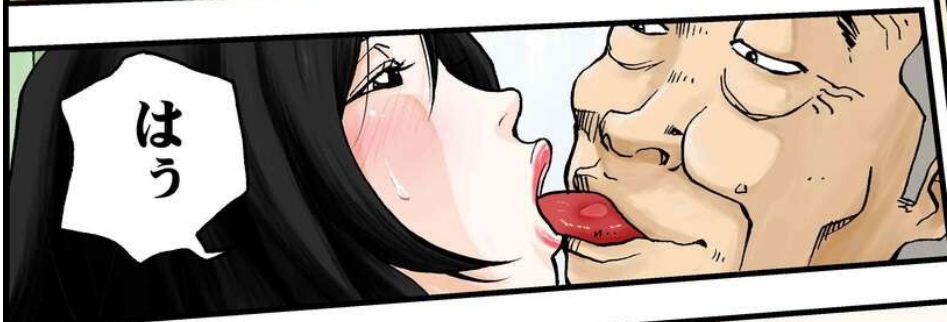
ふはあゝ
こりや旨い
さゆみさんの汗と
混ざってなんとも
甘露じゃ

レロリ

ほれ 乳房も
感じるじゃろ



おっ入り口を
みつけたぞ



はう

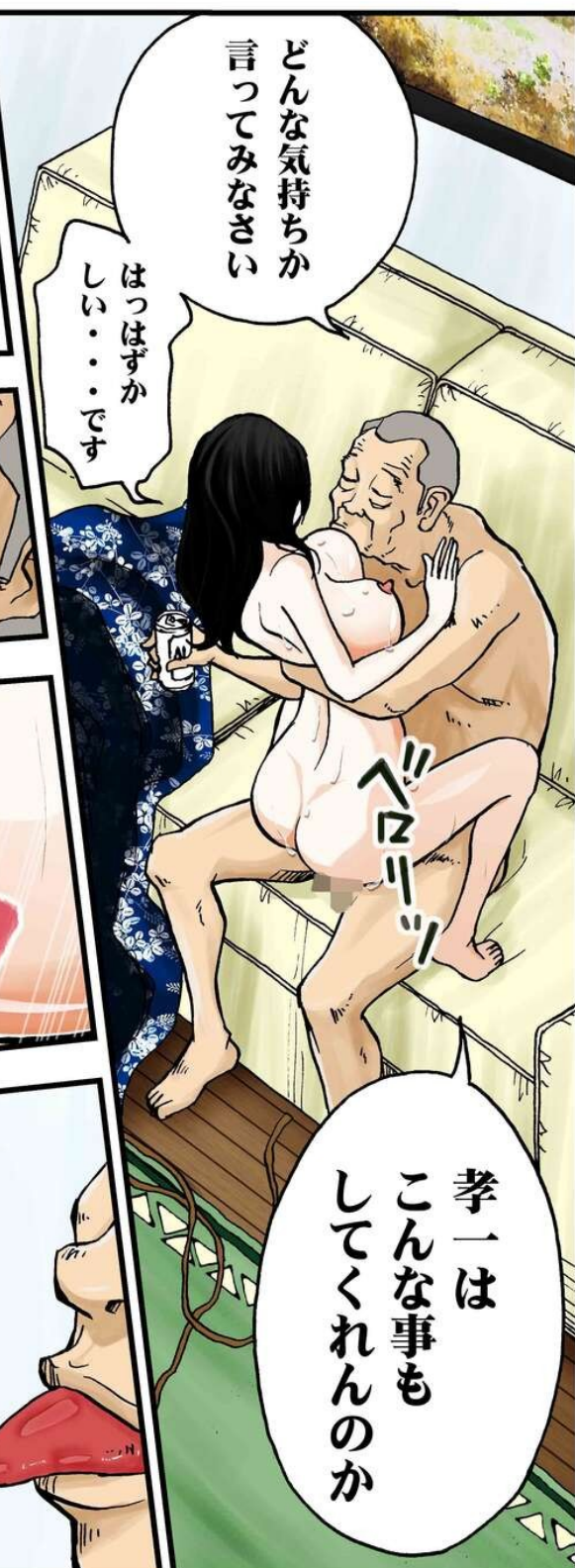


今度は
正面からじゃ

カ
カ



んあ



どんな気持ちか
言ってみなさい

はっはずか
しい・・・です

ベロリッ

孝一は
こんな事も
してくれんのか

なっなんで
拒めないの
孝一くんを裏切っているのに

身体が
私の言うことを
聞いてくれなっ



ヌチ
ヌチ

ヌチ



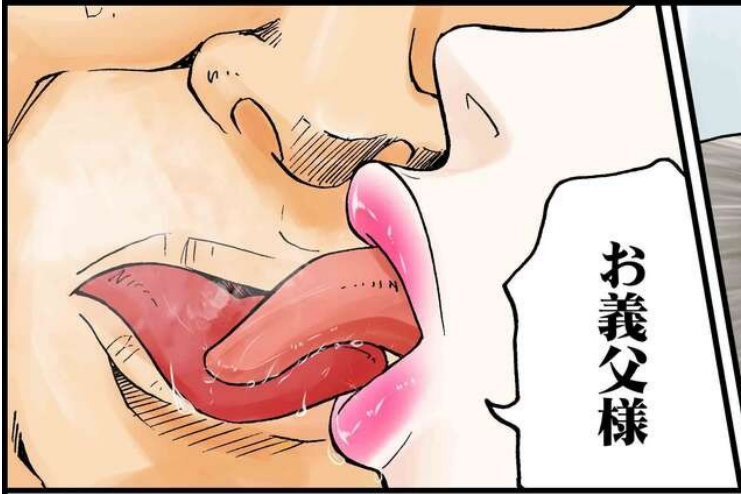
痛い



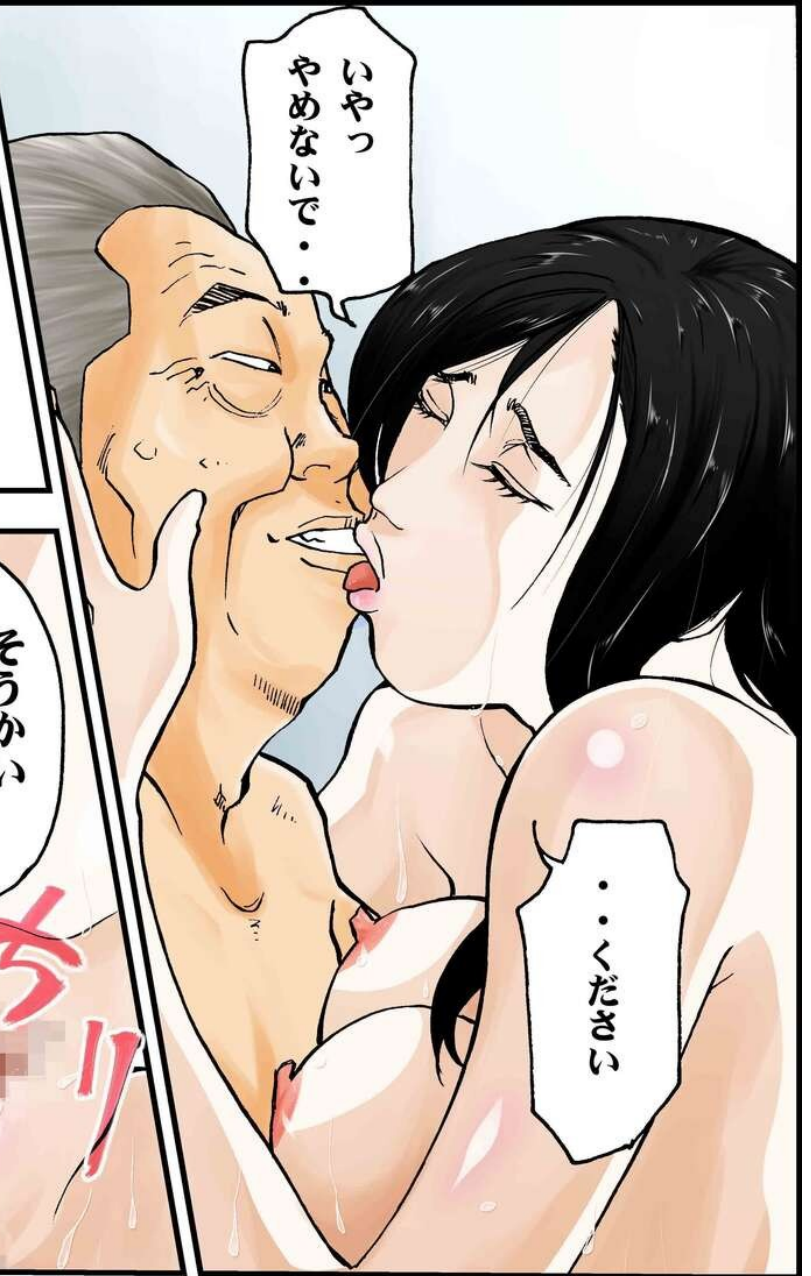
ユリッ



気に入らんか
ヤメルかね



お義父様



いやっ
やめないで...

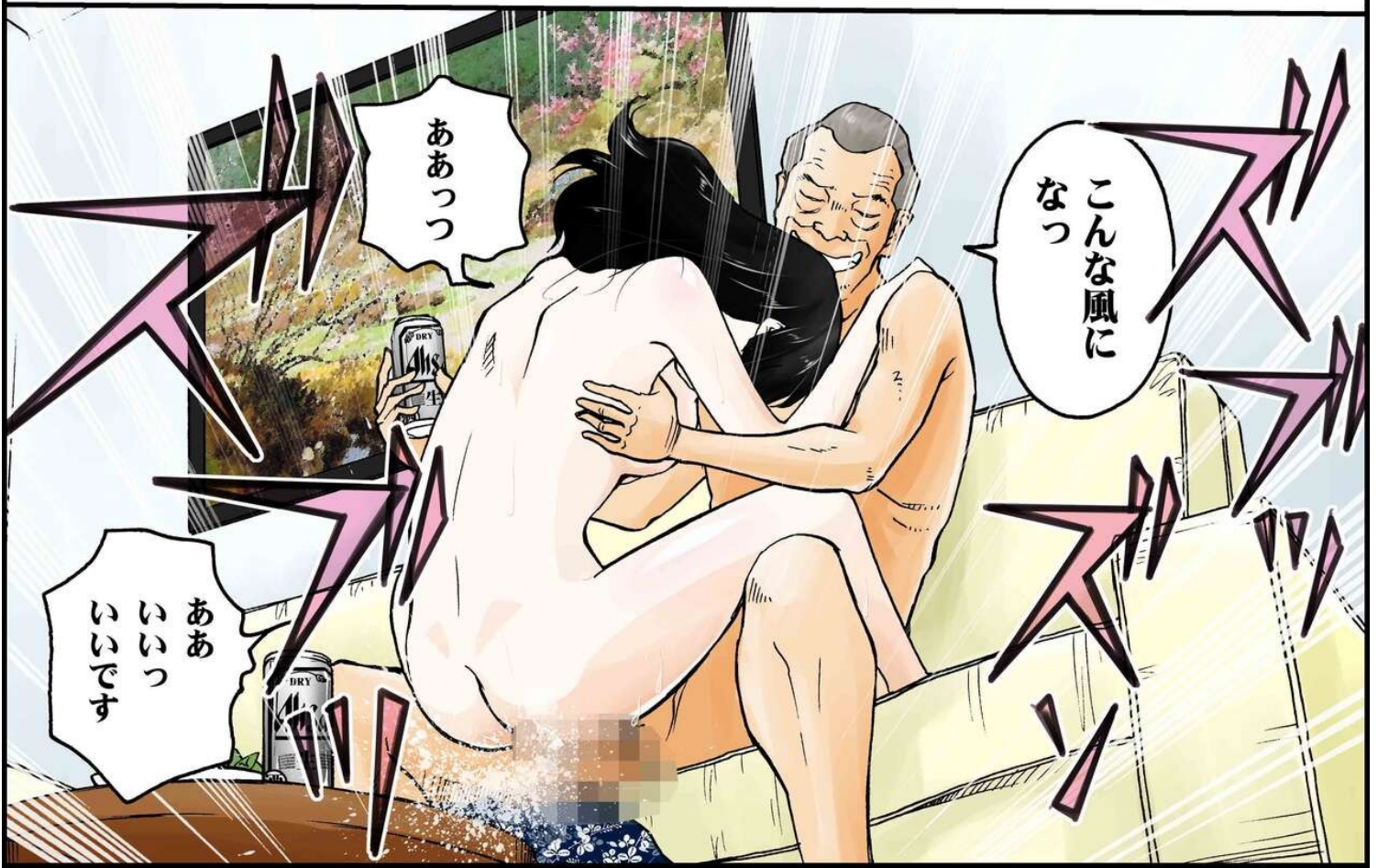
...くたれ

そうかい
さゆみさんが
望むなら

ぬ

チリ

いくらだって
まぐわってやるぞ



ああっ

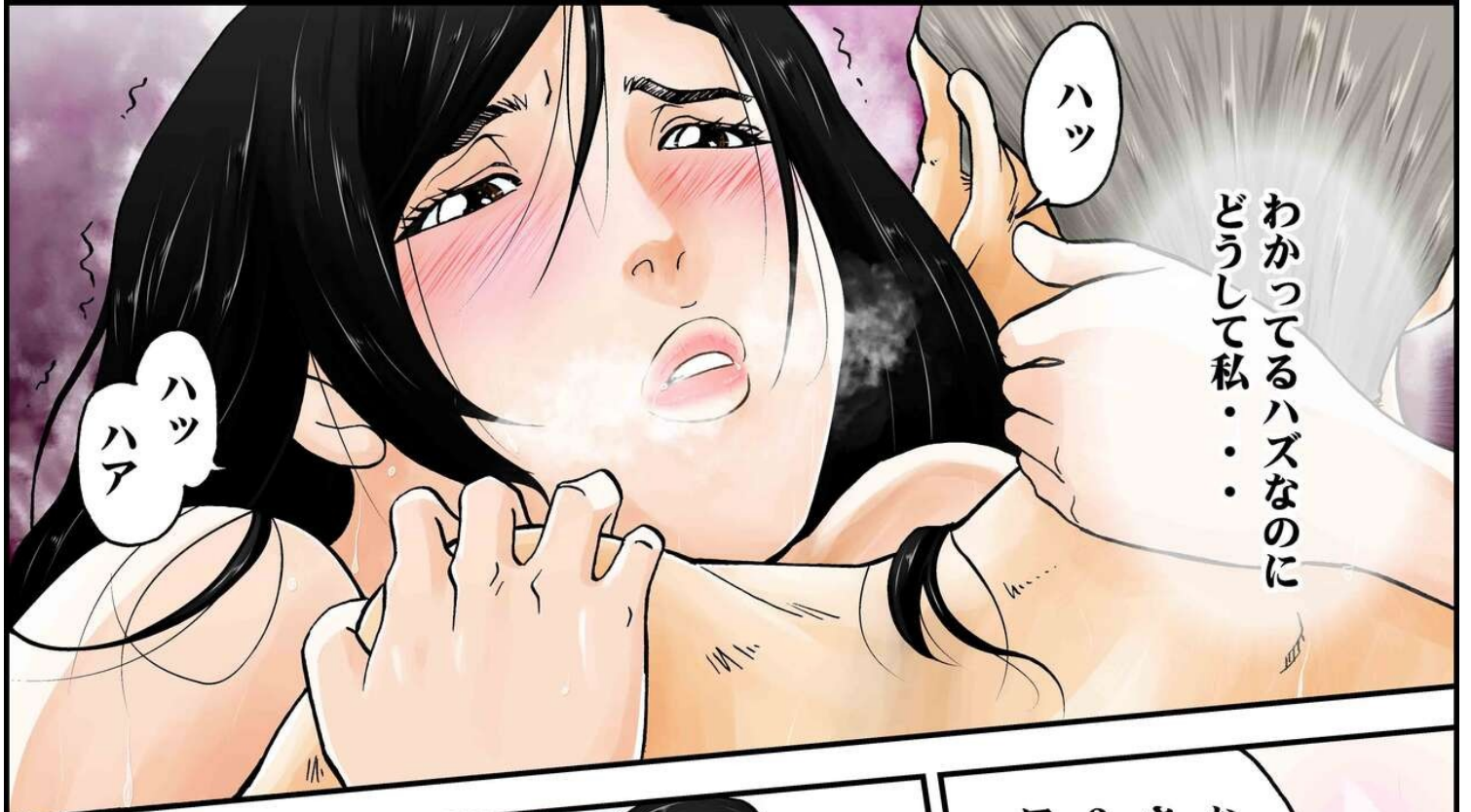
こんな風に
なっ

ああ
いいっ
いいです

夫の義父に犯される
私は気づいていたんじゃないだろうか
エスカレートしていった行為
あの 花火を見ていた時
手をつなぎ返した瞬間に……

義母の癌もウソにちがいない
最初から息子の妻の身体を
狙っていたのだ
でなければ こんな関係に
満足げに笑をうかべるはずがない……





わかってるハズなのに
どうして私・・・

ハッ

ハッ
ハア



おおっ凄いぞ
さゆみさんのマンコは
2度だしても
ワシのチンポが

いやっ

んっ
どうなる
見てみたいの
これ以上の
さゆみさんを



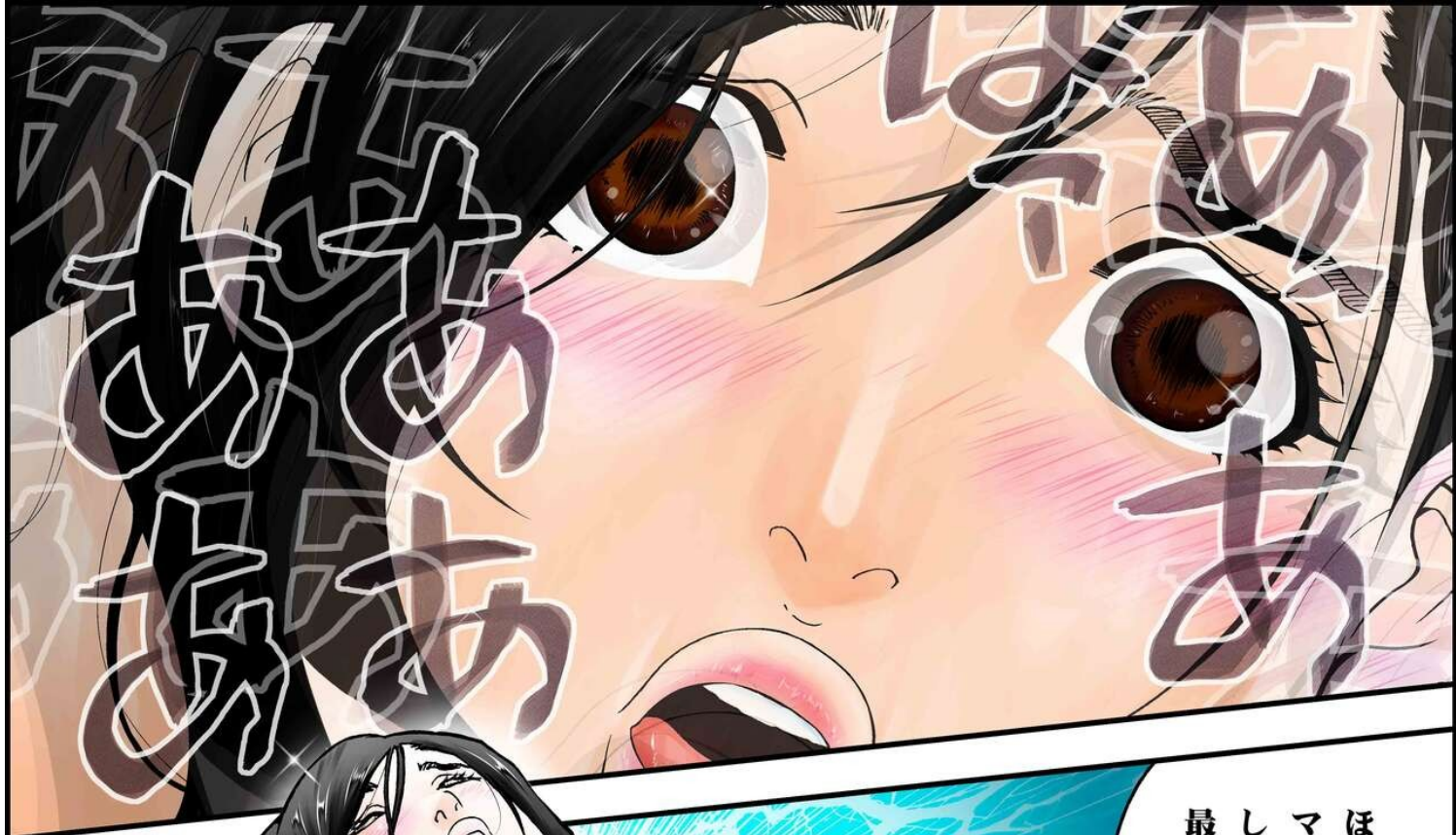
衰えんとは
はじめてじゃ

そら そら
見せてみんか
どうじゃ

いやっ

お義父さま
動かさないで
本当にわた・・・し

あーあーあーあー




ほおおおっ
マ○コがキュウキュウ
しまつとる
最高じゃぞ

ピク

ピクッ





義父は始めから楽しんでいた
自分からではなく
私の口からすべてを
言わせるように仕向けて

そう
私はこの義父という男によって
身体の間から隅まで開発され
快樂という畏に落とされたのだ
.....



私が開放されたのは
5度目の精子を身体に
流し込まれた後だったと思う



気を失ったように眠った私を
起こしたのは お昼すぎ

義父が6度目の
精子を私に流し込む
直前でした・・・



この日・・・
結局 孝一さんは
夜10時すぎ
私が好きなエクレアを
買って帰ってきた

ゴメンツ

バカ

そして
罪滅ぼしのためだろう
・・・

久しぶりに
求めてきた

いつもと変わらない
優しいタッチの
セックス・・・

あっ
あっ

孝一さんは
このままで
いいのだと思う

今のままで
・・・ただ

私の身体は
お義父さまなしでは
いられなくなってしまうている



1年後・・・

今日はパパと
お散歩でちゆか

今 田舎からおやじが
来てるんです
足の悪いおふくろを
おいて・・・

それで妻が
昼真つからビールに
つき合わされて

まあ
悪いおじいちゃん
孫よりお嫁さんを
かわいがるなんて

まったくです
母がいないのを
いい事にハメを
はずしてるんですよ

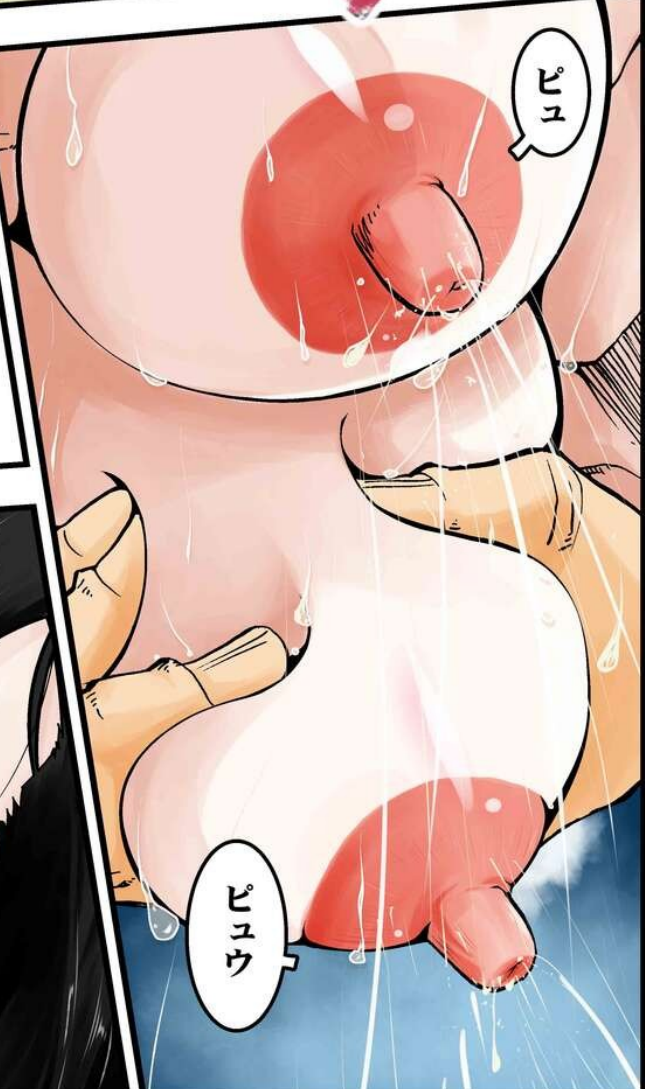
スープ

ヌップ



あつ
はああつ

いいっ
気持ちいい

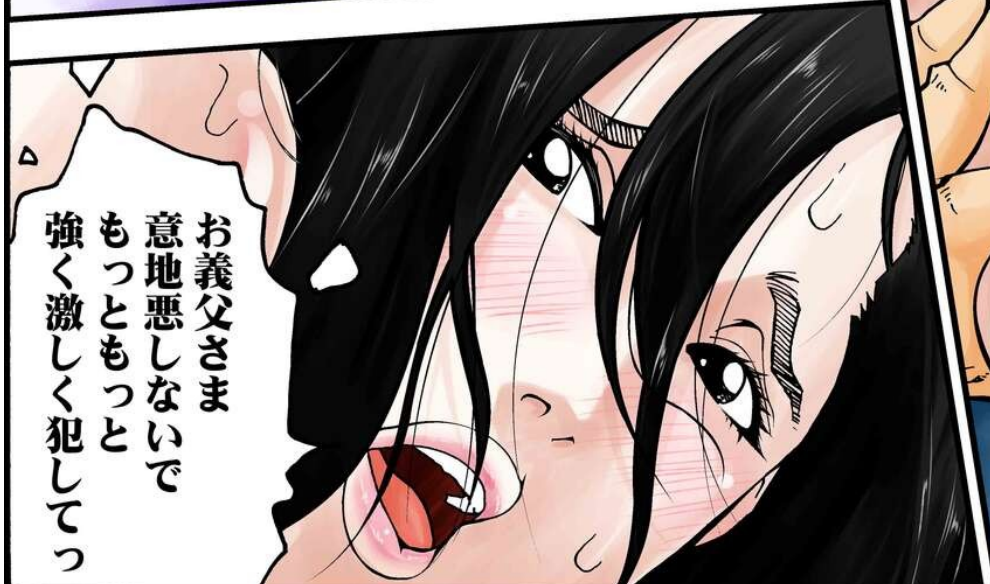


ピュ

ピュウ



さゆみさん
母乳が勢いよく
出とるぞ



お義父さま
意地悪しないで
もっともっと
強く激しく犯してっ

たっぷりとワシの
濃い子種を受け取れっ
しっかりと孕むんじやぞ
さゆみさん

はい うれしい
お義父さま……

やはり
あれから義母が
癌などという話は
聞いたことがありません

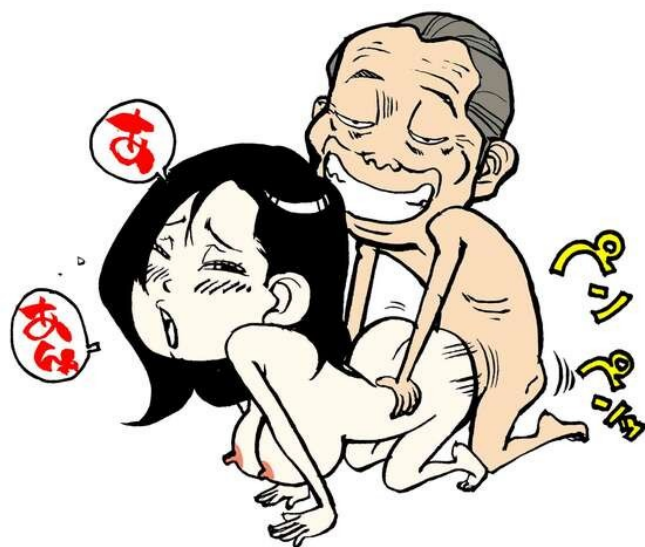
それでも私は今
優しい夫と
義父に愛されて
とてもしあわせです。

END

あとがき

このたびは作品を購入いただき
誠にありがとうございました
新参者ではありますが
読者さんの股間の友となるよう
精進してまいります
つたない面がありましたらぜひ
ご意見いただけたら嬉しく思います

みなさんのお買い上げ一つ一つに心震わせる
八百万★社中でございました。



Twitter



DMM (FANZA)

八百万★社中販売サイト



アンケート